

男女が共に支える社会づくりのための

市民意識調査

報告書

平成18年3月

日田市

目 次

<u>I. 調査の概要</u>	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 報告書の見方	1
5. 回収結果	2
(1) 回収率	2
(2) 回答者の属性	2
問1 性別	2
問2 年齢	2
問3 職業	3
問4 家族構成	4
問5 住居地域	5
問6 居住年数	5
<u>II. 調査結果のまとめ</u>	6
<u>III. 調査結果の分析</u>	13
1. 男女の意識について	13
(1) 性別役割分担意識	13
(2) 男女平等の状況	15
a 家庭生活上	16
b 職場で	17
c 地域で	18
d 学校教育で	19
e 政治の場で	20
f 法律や制度上で	21
g しきたりや社会通念で	22
h 社会全体で	23
2. 家庭生活について	24
(1) 家庭生活の分担状況	24
(2) 男性が参画に必要な取り組み	28

3. 仕事について	29
(1) 就業状況	29
(2) 今後の就業希望	31
(3) 職場における男女差別	32
(4) 職場における男女格差	33
(5) 女性の就業に対する考え方	34
(6) 女性への就業支援	36
(7) 自営業者の経営方針への参画	38
4. 地域活動について	39
(1) 地域における女性の参画状況	39
(2) 女性が活動しにくい状況の内容	41
5. 健康について	42
(1) 健康診断の受診状況	42
(2) 健康診断を受診しなかった状況	42
6. 少子化について	43
(1) 出生率低下についての意識	43
7. 女性の人権について	44
(1) 配偶者等からの暴力	44
①暴力の実態	44
②相談の有無	45
③相談した結果	46
(2) 職場における性的嫌がらせ	47
①嫌がらせの実態	47
②相談の有無	48
③相談した結果	49
8. 政策決定の場への女性の参画について	49
(1) 女性の審議会等への登用状況	49
(2) 女性委員が少ない理由	50
9. 男女共同参画への要望	51
(1) 男女共同参画社会実現に必要な取り組み	51
(2) 男女共同参画社会実現に対する意見	52
<u>IV. アンケート調査票</u>	61

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、日田市男女共同参画基本計画の第二次行動計画策定にあたり、市民の家庭生活・職場・社会活動などの様々な場面における男女の意識や実態を把握し、第二次行動計画策定の基礎資料とするとともに、市民の男女共同参画に関する意識啓発を行うことを目的として調査を行う。

2. 調査項目

調査項目		
	回答者の属性	問1～問6
(1)	男女の意識について	問30・問31
(2)	家庭生活について	問32・問33
(3)	仕事について	問34～問41
(4)	地域活動について	問42・問43
(5)	健康について	問44・問45
(6)	少子化について	問46
(7)	女性の人権について	問47～問52
(8)	政策決定の場への女性の参画について	問53・問54
(9)	男女共同参画への要望などについて	問55・問56

3. 調査設計

(1) 調査対象

市内に居住する20歳以上の男女

(2) 標本の抽出方法

住民基本台帳による無作為抽出

(3) 標本数

3,178人

(4) 調査方法

郵送配布 - 郵送回収

(5) 調査期間

平成17年11月30日～平成17年12月16日

4. 報告書の見方

(1) 図表中の回答者数は「件数」で表している。

(2) 回答は、回答者数を基数とした百分率(%)で表し、小数第二位を四捨五入した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。

5. 回収結果

(1) 回収率

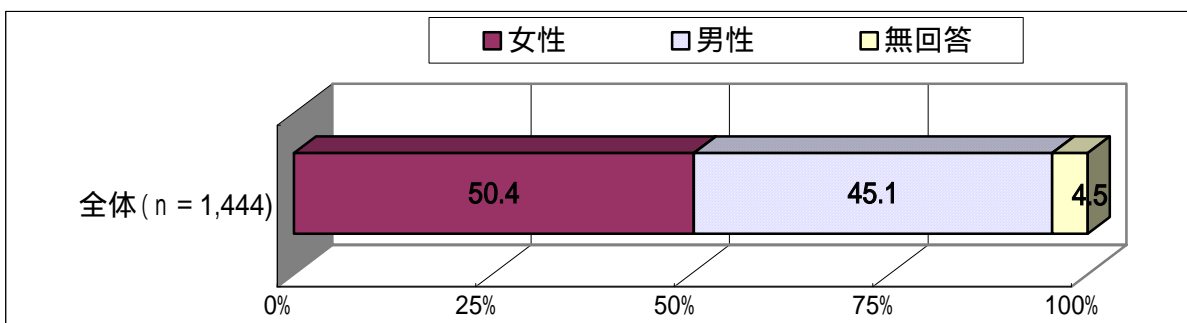
45.4% (1,444人)

(2) 回答者の属性

問1 性別

あなたの性別は。

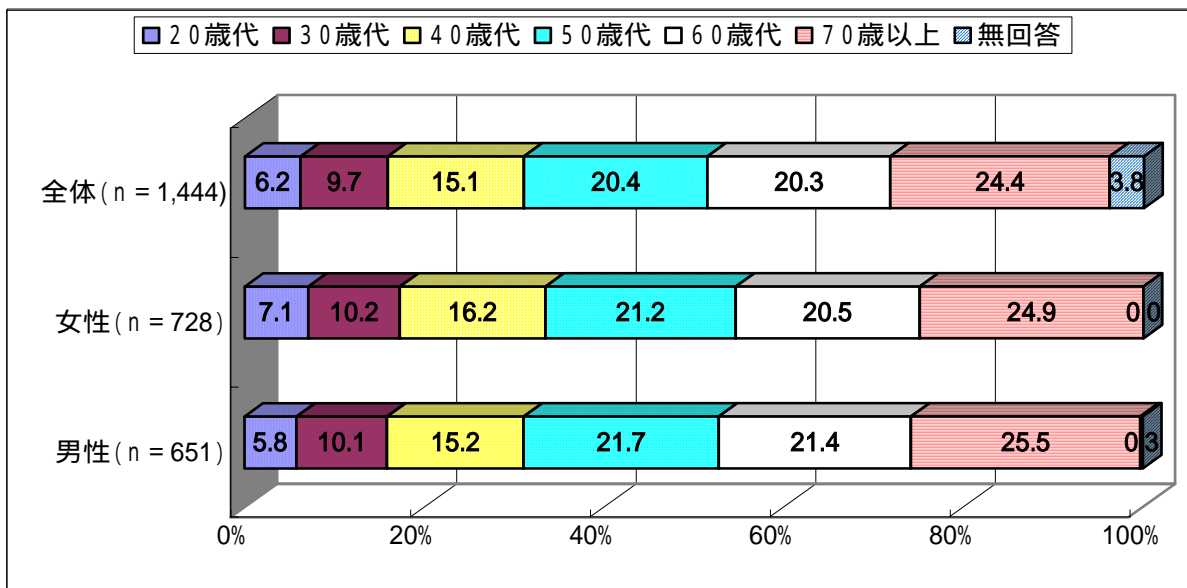
女性が50.4%、男性が45.1%を占める。



問2 年齢

あなたの年齢は。

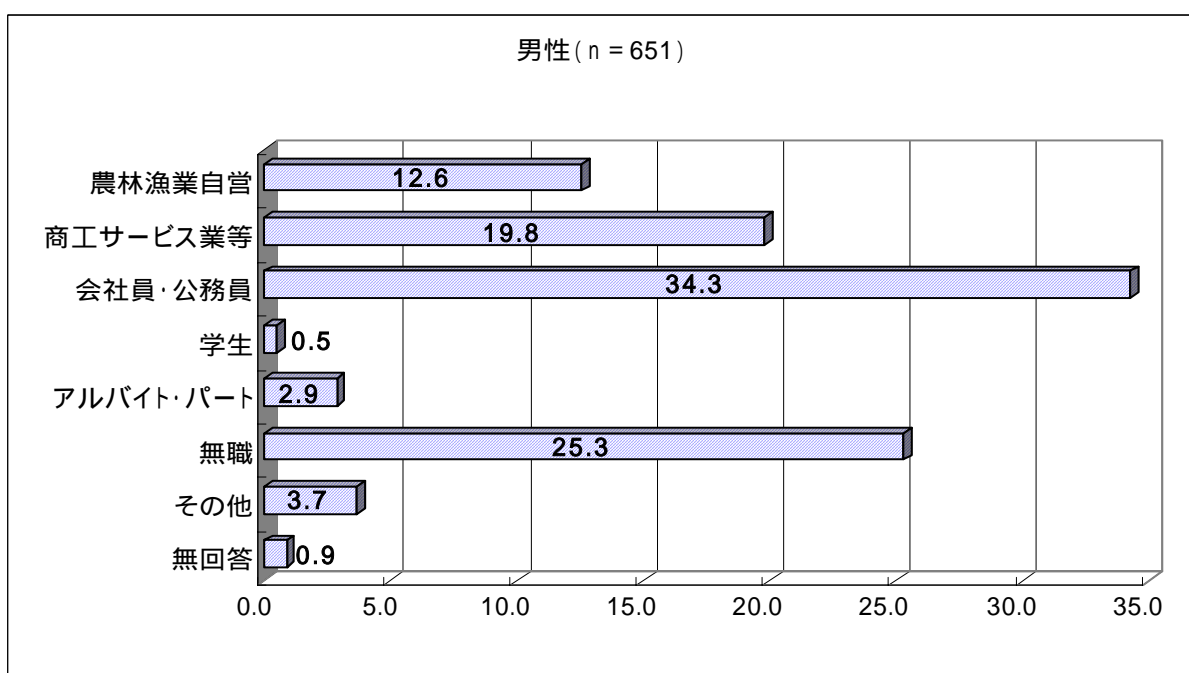
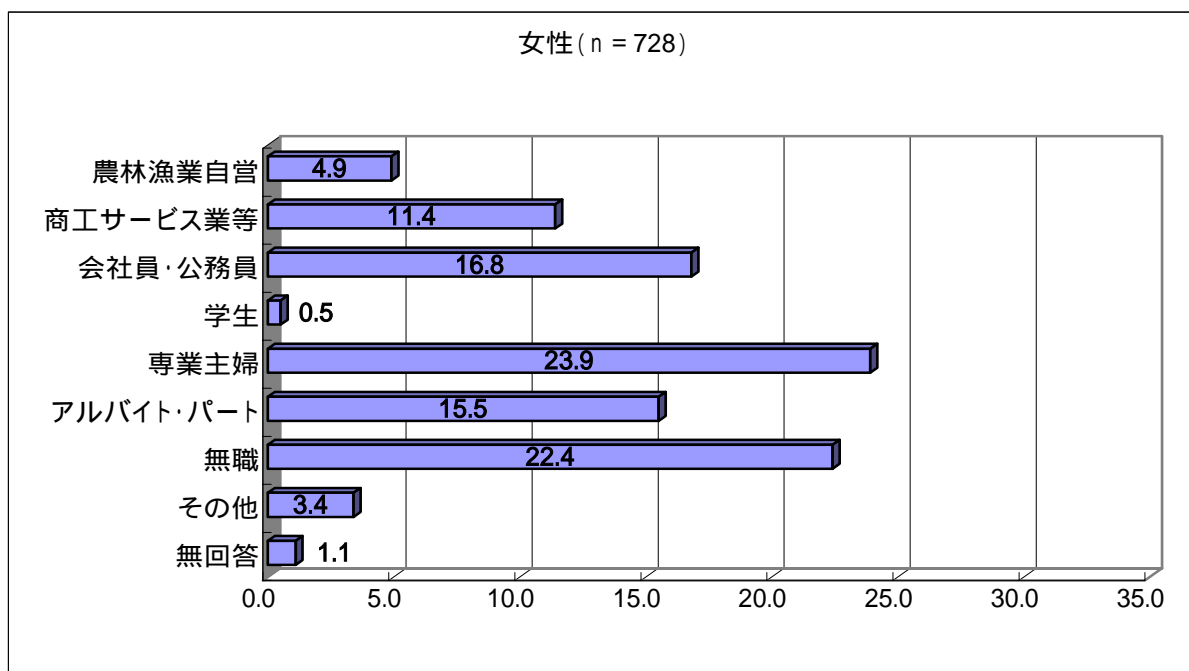
70歳以上が24.2%と最も多く、次いで50歳代(20.4%)、60歳代(20.3%)、40歳代(15.1%)、30歳代(9.7%)、20歳代(6.2%)となっている。



問3 職業

あなたの職業は。

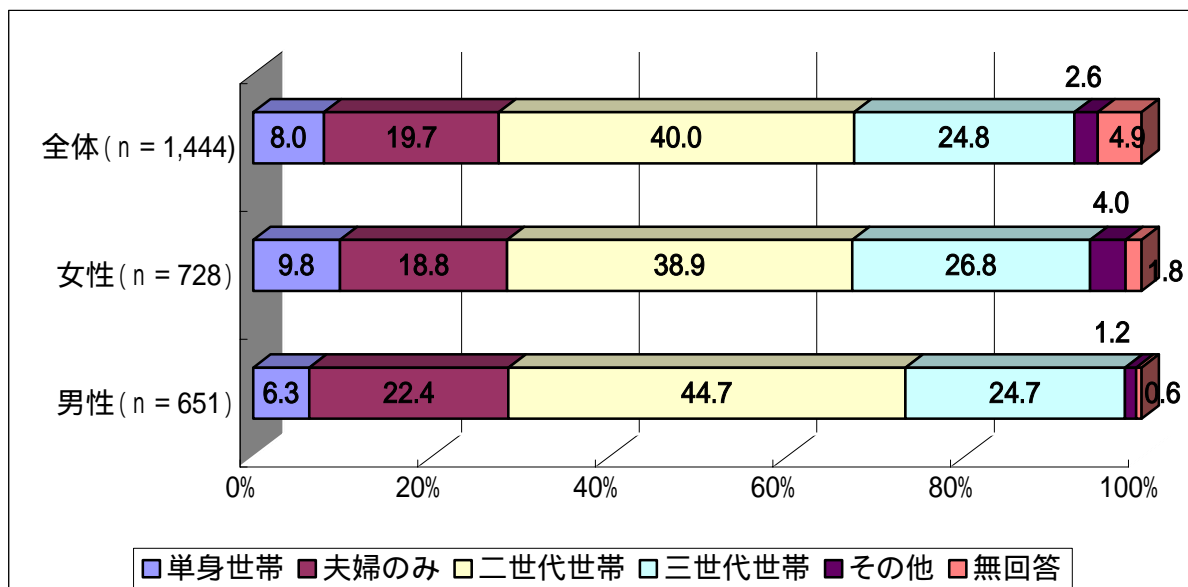
性別にみると、女性では「専業主婦」(23.9%)が最も多く、次いで「無職」(22.4%)、「会社員・公務員」(16.8%)が続いている。男性では「会社員・公務員」(34.3%)が最も多く、次いで「無職」(25.3%)、「商工サービス業等」(19.8%)が続いている。



問4 家族構成

あなたの家族構成は。

二世帯世帯（親と子供、親と子供夫婦）が40.0%で最も多く、次いで三世帯世帯（親と子供と孫）24.8%、夫婦のみ19.7%、単身世帯8.0%、その他の世帯2.6%となっている。



問5 住居地域

あなたが住んでいる地域は。

地域	全体(人)	女性(人)	男性(人)	地域	全体(人)	女性(人)	男性(人)
咸宜	163	82	79	東有田	37	15	22
桂林	81	42	39	小野	23	14	9
若宮	65	31	32	大鶴	39	18	19
日隈	61	40	20	夜明	22	15	7
光岡	132	73	59	前津江	46	19	27
三芳	105	58	47	中津江	45	14	31
高瀬	86	46	39	上津江	39	20	19
五和	46	27	18	大山	73	33	39
朝日	37	20	16	天瀬	132	72	60
三花	90	48	41	無回答	62	5	5
西有田	60	36	23				

問6 居住年数

あなたは日田市にお住まいになって何年になりますか。

	全体 (n = 1,444)	女性(n = 728)	男性(n = 651)
2年未満	36	17	19
2～5年未満	39	25	14
5～10年未満	52	33	19
10～20年未満	97	54	42
20年以上	1,156	595	550
無回答	64	4	7

Ⅱ. 調査結果のまとめ

1. 男女の意識について

(1) 性別役割分担意識 (問30)

- 男は仕事、女は家庭という考え方を全体でみると、固定的な役割分担の考え方を否定する「同感しない」が43.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」37.0%、「同感する」12.0%の順に回答されている
- 性別・年齢別では、男女のいずれの年代においても「同感しない」との回答が多く、特に女性にその傾向が強くなっている。一方、「同感する」と回答した割合は、女性9.3%に対し男性15.4%と男性が高く、また、年齢が高くなるほどその割合も高くなっている。

(2) 男女平等の状況 (問31)

- 平等感を分野ごとにみると、「平等である」との意識が高い分野は、学校教育の場で57.1%、法律や制度上で38.4%となっているが、このほかの分野はいずれも『男性が優遇されている』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合が過半数を超える状況にある。特に、しきたりや社会通念でその割合は68.2%と最も高く、男性の優遇感が最も強い分野となっている。

2. 家庭生活について

(1) 家庭生活の分担状況 (問32)

家庭内における役割分担の現状をみると、「町内行事等への参加」「育児・子どものしつけ」を除く7項目で「主に妻」と回答されており、女性の家事負担が大きい結果となっている。一方、理想では「食事のしたく」以外の8項目で「夫婦で共同」と回答され、特に「育児・子どものしつけ」、「PTAへの出席」、「町内会への参加」、「高齢者の世話・介護」でその割合は高くなっており、現実と理想に大きな開きあることがうかがえる。

性別・項目別でみると、「食事のしたく」は現状でも理想でも「主に妻」との回答が男女ともに多いが、「育児・子どものしつけ」で女性の回答は「主に妻」が多い現状に対し男性は「夫婦で共同」が多く、また、「町内行事等への参加」で女性は「夫婦で共同」が多い現状に対し男性は「主に夫」が多いなど、男女間で意識の差がみられる。

(2) 男性が参画に必要な取り組み (問33)

- 男性が女性とともに家事・育児・介護等に参加するために必要なことを全体でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と回答した割合は 27.2%で最も高く、次いで「子どもの時からの家庭教育」19.8%、「男性自身の抵抗感をなくす」18.9%と続いている。

性別にみると、女性では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」や「子どもの時からの家庭教育」が必要との回答が男性に比べ多いのに対し、男性では「家事等参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」や「職場における労働時間短縮や育児・介護休暇等をとりにやすくする」が女性に比べ多く回答されており、男性は家庭以外での取り組みが必要と感じていることがうかがえる。

3. 仕事について

(1) 就業状況 (問34)

- 現在働いている人で「卒業して以来、継続して働いている」との回答は、男性では 53.5%と半数を占めているのに対し、女性では 17.9%となっている。又、現在働いていない人で男性では、「定年退職による」と回答した人が 19.5%が最も多く、女性では「結婚・出産・育児のためにやめた」が 14.3%で最も高い割合を占めている。
- 性別・年齢別でみると、女性では 20 歳代で「継続して働いている」が 50.0%と最も多く、30~50 歳代では「卒業してから働いたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」との回答が多くなっている。また 30 歳代で現在働いていない人では、「結婚・出産・育児のためにやめた」と回答した割合が 32.4%で最も高くなっており、女性は 30 歳代で結婚・出産・育児のため一時仕事をやめ、その後、再度働きはじめるケースが多いことがわかる。一方、男性では、全ての年代で「卒業して以来、継続して働いている」が最も多くなっており、働き方は男女間で大きく違っていることがうかがえる。

(2) 今後の就業希望 (問35)

- 今後の仕事についての考えを性別・年齢別にみると、女性では「将来働きたい」と回答した割合が 20 歳代で 80.0%、30 歳代 64.0%、40 歳代 40.0%と各年代で最も高い割合を占めている。一方、男性の 20 歳代では「将来働きたい」が 37.5%で最も高くなっているが、30~40 歳代では「直ぐ働きたい」が過半数を超え最も多く回答されている。また、50 歳代以上では「今のままでよい」との回答が男女ともに多くなっている。

(3) 職場における男女差別 (問36)

- 職場における女性への差別についての問いであるが、全体では「そのようなことはないと思う」との回答が過半数を越え (57.3%)、次ぐ「差別されていると思う」(23.8%)を大きく上回る結果となっている。
- 性別にみると、女性は男性に比べ「差別されていると思う」との割合が高くなっており (女性 26.4%男性 21.7%)、女性に差別感が強いことがうかがえる。

(4) 職場における男女格差 (問37)

- 差別の具体的な内容を性別にみると、男女ともに「賃金に格差がある」との回答が最も多いが、その割合は「能力を正当に評価しない」と同様、女性が男性に比べ高くなっている。一方、男性では「昇給・昇格に差別がある」、「結婚したり子どもがうまれたりすると勤めにくい雰囲気がある」との回答が女性より多くなっており、男女間で差別意識の違がみられる。

(5) 女性の就業に対する考え方 (問38)

- 女性が職業を持つことについては、男女ともに「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」となっており、その割合は他を大きく上回っている。
年齢別でみると、「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答は年齢が高いほど多く、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」は若い層ほど多くなっている。

(6) 女性への就業支援 (問39)

- 女性が働き続けるために必要な支援等で全体で最も多いのは「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」で19.7%、次いで「家族の協力」17.7%、「企業などにおける育児・介護休暇制度などの充実」14.2%と続いている。
- 性別・年齢別にみると、女性では「家族の協力」との回答が最も多く、中でも40～50歳代にその傾向が強くみられる。一方、男性では、いずれの年代も「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」が最も多く、続く「家族の協力」では年齢が高くなるほど多くなっている。

(7) 自営業者の経営方針への参画 (問40)

事業経営の方針等を誰が決定するかの問いでは、「主に夫」との回答が53.0%で最も多く、次いで「夫婦で話し合い」が24.3%となっており、全体の約8割がこのどちらかと回答している。

(8) 家族従事者に対する評価 (問41)

- 家族の自営業従業者に対する金銭的な評価については、男女とも「労働の対価として、金銭的評価をすべきである、又は既に払っている」との回答が最も多く、その他の回答を大きく上回る結果となっている。

4. 地域活動について

(1) 地域における女性の参画状況 (問42)

- 自治会等地域活動の場で女性が活動しにくい雰囲気や状況があるかを全体でみると「そういうことはないと思う」と回答した割合が44.9%で最も高いものの、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」との回答も33.2%で3割を超える結果となっている。
- 性別にみると「できにくい雰囲気や状況があると思う」と回答した割合は女性37.5%に対し男性は29.2%となっており、女性の方が活動しにくいと感じている状況にある。
年齢別にみると、20歳代は「わからない」が最も多いが、30～50歳代は「出来にくい雰囲気や状況があると思う」、60～70歳代では「そういうことはないと思う」との回答が多く、年齢層でその考えが大きく違う結果となっている。

(2) 女性が活動しにくい状況の内容 (問43)

地域活動の場で女性が活動できにくい状況の内容を全体でみると、「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」との回答が最も多く(27.0%)、次いで「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」(23.7%)、「集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある」(23.0%)と続き、その割合は比較的近いものとなっている。

性別では、女性で「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」と回答した割合が27.4%で最も高いのに対し、男性では「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」が29.2%で高い割合を占めている。

5. 健康について

(1) 健康診断の受診状況 (問44)

健康診断については、いずれも6割以上が受診しているが、その割合は女性より男性が高くなっている。

(2) 健康診断を受診しなかった状況 (問45)

- 受診しない理由については、男女ともに「健康である」と回答した割合が最も高く(29.2%)、次いで「現在通院している」(23.3%)、「仕事が忙しくて受ける暇がない」(16.8%)の順になっている。また、「現在通院している」との回答は女性に多く、一方男性では「仕事が忙しくて受ける暇がない」が女性に比べ多くなっている。

6. 少子化について

(1) 出生率低下についての意識 (問46)

出生率の低下については、いずれも「教育費などの経済的負担が大きいから」との回答が3割を占め最も高く、特に女性より男性にその思いが強い状況にある。また、「子育てより仕事に生きがいを感じる女性が多くなったから」との回答は女性に多くなっている。

7. 女性の人権について

(1) 配偶者等からの暴力

暴力の実態 (問47)

- 配偶者や恋人等親しい関係にある人との間での暴力の実態をみると、全体の9割で「ない」と回答されている。一方、「されたことがある」と回答した被害体験者の男女の割合は、女性15.2%に対し男性4.6%となっており、女性が被害の対象となる割合が高くなっている。

性別・項目別にみると、「されたことがある」で最も多く回答されたのは、「大声でどなって威嚇する」、「交友関係やお金の使い道等細かく監視・制限する」が上位に挙げられ、いずれも女性が高い割合を占めている。一方、「したことがある」の割合はいずれも男性が高くなっており、その内容は「大声でどなって威嚇する」「家具や食器を投げたり壊したりする」「殴る、蹴る」の順になっている。

② 相談の有無 (問48)

被害体験者の相談先を全体でみると、「友人・知人に相談した」と「相談しなかった」の回答が同率で最も多く、次いで「家族に相談した」となっている。

性別でみると、女性では「友人・知人に相談した」が多いのに対し、男性は「相談しなかった」との回答が多く、被害を受けた際の男女の対応は、大きく違う結果となっている。

③ 相談した結果 (問49)

- 相談した結果の状況を全体でみると、「あまり状況は変わらなかった」が54.5%で最も高く、次いで「良い方向に向かった」22.1%、「良い方向に向かった」9.1%と続いている。

性別では、いずれも「あまり状況は変わらなかった」との回答が最も多くなっているが、女性では「良い方向に向かった」の割合が高いのに対し男性では「かえって悪くなった」と回答した割合が高く、相反する結果となっている。

(2) 職場における性的嫌がらせ

嫌がらせの実態 (問50)

セクシャル・ハラスメントの被害状況では、男女とも「自分は被害を受けたことがないし、友人・知人で被害を受けた人を知らない」との回答が4割を超え最も多くなっている。また、少ない件数ではあるが「自分が直接被害を受けたことがある」との回答は女性に多い結果となっている。

相談の有無 (問51)

被害体験者の相談先を全体で見ると、「友人・知人・家族に相談した」が38.6%で最も多く、次いで「相談しなかった」31.8%、「上司・同僚に相談した」と続いている。

性別にみると、女性では「友人・知人・家族に相談した」が最も多く、また、「上司・同僚に相談した」は女性だけの回答となっている。一方、男性の多くは「相談しなかった」と回答されており、友人・知人・家族等の比較的身近な人以外には相談しない傾向がうかがえる。

相談した結果 (問52)

- 相談した結果の状況を見ると、「良い方向に向かった」、「あまり状況は変わらなかった」に続き「問題が解決された」の順に回答されている。

8. 政策決定の場への女性の参画について

(1) 女性の審議会等への登用状況 (問53)

審議会等委員の女性登用については、いずれも「わからない」との回答が多く(29.6%)続いて「女性を増やした方がよい」(27.4%)、「男女半々がよい」(22.3%)の順になっている。その中でも「女性を増やした方がよい」の割合は、女性28.8%に対し男性27.5%と女性がやや高くなっており、女性委員の登用促進を望む声は女性に強くなっている。

(2) 女性委員が少ない理由 (問54)

- 女性委員の少ない理由を全体でみると、「行政に関心のある女性が少ない」が最も多く(27.4%)、次いで「関わる機会が少ない」(27.1%)、「家事や育児に支障をきたすため」(22.0%)、「団体の長でなければ委員になれない」(9.1%)の順になっている。

性別にみると、女性では「関わる機会が少ない」との回答が多いのに対し男性は「行政に関心のある女性がすくない」が最も多くなっており、男女間で意識の違いがあることがわかる。又、「家事や育児に支障をきたすため」と考えている女性は男性が考える以上に多いことがうかがえる。

9. 男女共同参画への要望

(1) 男女共同参画社会実現に必要な取り組み (問55)

男女共同参画社会の実現のために必要な取り組みを全体でみると、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」が18.2%で最も高く、次いで「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」13.6%、「子育て介護などと仕事の両立のための支援」12.7%、「女性の能力向上のための学習・研修の充実(女性リーダーの育成)」10.4%、「子どもの頃からの男女平等教育の推進」10.1%などが上位に挙げられている。

性別にみると、女性では「子育て・介護などと仕事の両立のための支援」が必要とする回答が男性より多く、一方、男性では「子どもの頃からの男女平等教育の推進」との声が女性に比べ多くなっている。

(2) 男女共同参画社会実現に対する意見 (問56)

- 自由意見

Ⅲ. 調査結果の分析

1. 男女の意識について

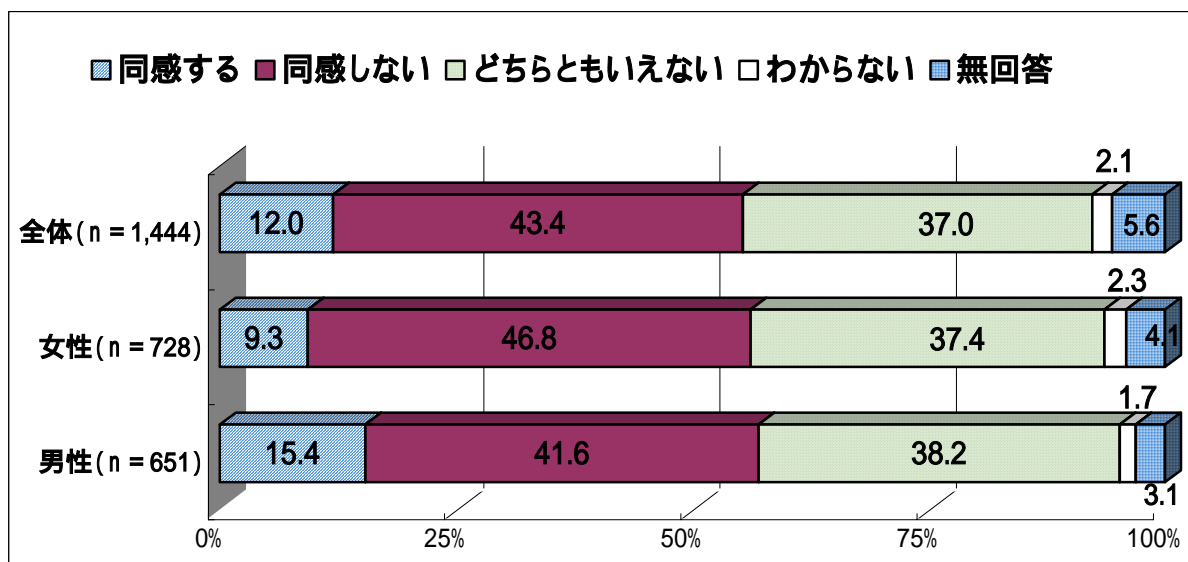
(1) 性別役割分担意識

問30 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(単一回答)

～ 「男は仕事、女は家庭」という考え方には否定的 ～

男は仕事、女は家庭という考え方を全体で見ると、固定的な役割分担の考え方を否定する「同感しない」が43.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」37.0%、「同感する」12.0%の順に回答されている。

性別・年齢別では、男女のいずれの年代においても「同感しない」との回答が多く、特に女性にその傾向が強くなっている。一方、「同感する」と回答した割合は、女性9.3%に対し男性15.4%と男性が高く、また、年齢が高くなるほどその割合も高くなっている。



「男は仕事、女は家庭」に対する考え方

(調査数:件数、回答:%)

		調査数	同感する	同感しない	どちらともいえない	わからない	無回答
全 体		1,444	12.0	43.4	37.0	2.1	5.6
女性	20歳代	52	3.8	61.5	32.7	1.9	0.0
	30歳代	74	4.1	63.5	29.7	2.7	0.0
	40歳代	118	2.5	52.5	41.5	1.7	1.7
	50歳代	154	7.1	61.0	30.5	0.6	0.6
	60歳代	149	14.1	40.3	42.3	0.7	2.7
	70歳以上	181	15.5	25.4	40.9	5.5	12.7
女 性 計		728	9.3	46.8	37.4	2.3	4.1
男性	20歳代	38	21.1	52.6	26.3	0.0	0.0
	30歳代	66	7.6	47.0	40.9	3.0	1.5
	40歳代	99	4.0	50.5	39.4	3.0	3.0
	50歳代	141	13.5	41.1	42.6	0.7	2.1
	60歳代	139	13.7	36.0	43.9	2.2	4.3
	70歳以上	166	27.1	36.1	31.3	1.2	4.2
	年齢無回答	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
男 性 計		651	15.4	41.6	38.2	1.7	3.1
性別無回答	40歳代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	60歳代	5	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0
	70歳以上	6	16.7	16.7	16.7	0.0	50.0
	年齢無回答	53	7.5	20.8	17.0	3.8	50.9
性別無回答計		65	7.7	21.5	20.0	3.1	47.7

(県民意識調査との比較)

(調査数:件数、回答:%)

		調査数	同感する	同感しない	どちらともいえない	わからない	無回答
全 体	日田市	1,444	12.0	43.4	37.0	2.1	5.6
	大分県	1,511	12.2	43.7	40.0	2.2	1.9
女 性	日田市	728	9.3	46.8	37.4	2.3	4.1
	大分県	875	10.1	44.3	41.4	2.3	1.9
男 性	日田市	651	15.4	41.6	38.2	1.7	3.1
	大分県	630	15.1	43.2	37.9	1.9	1.9

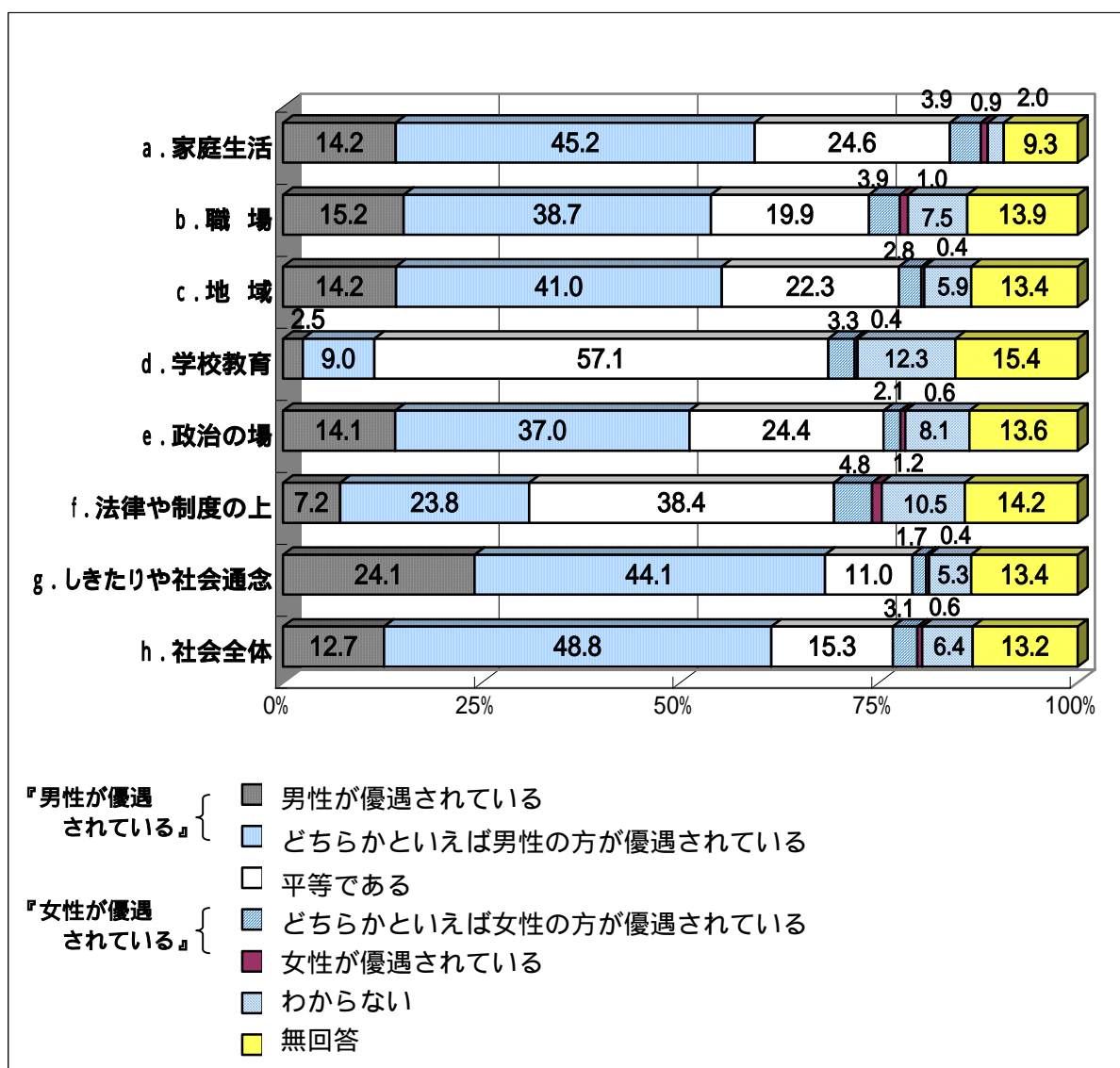
資料 平成16年県民意識調査

(2) 男女平等の状況

問31 あなたは、次の分野において男女平等がどの程度、実現されていると思いますか。
(単一回答)

～ 多数の分野で「男性が優遇されている」と回答 ～

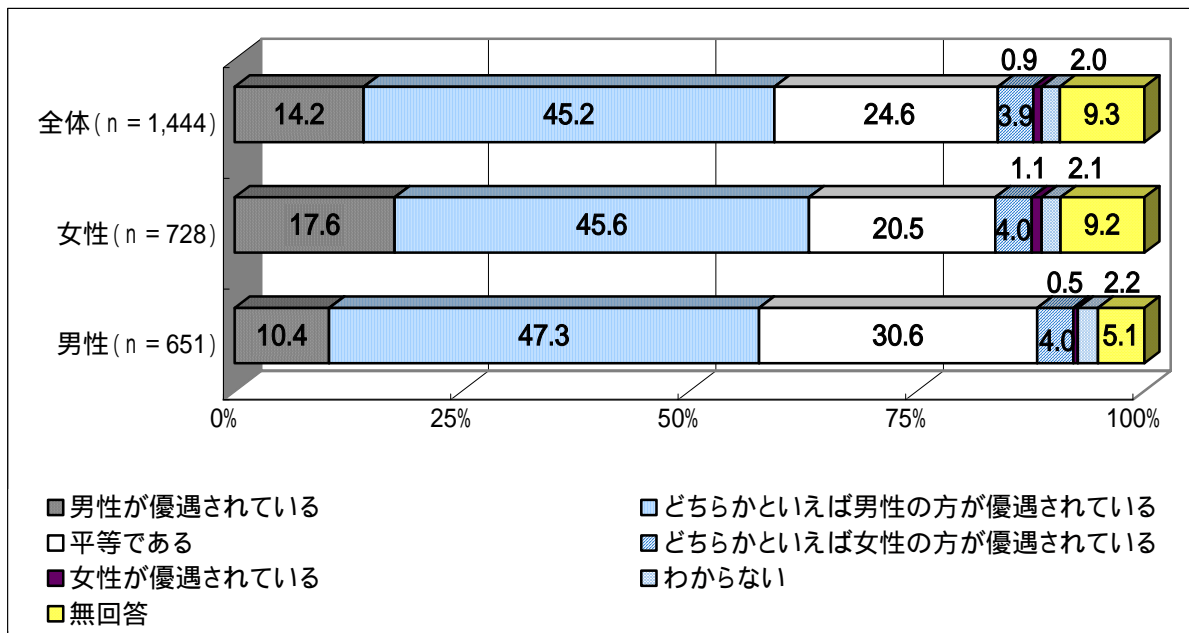
平等感を分野ごとにみると、「平等である」との意識が高い分野は、学校教育の場で57.1%、法律や制度上で38.4%となっているが、このほかの分野はいずれも『男性が優遇されている』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合が過半数を超える状況にある。特に、しきたりや社会通念でその割合は68.2%と最も高く、男性の優遇感が最も強い分野となっている。



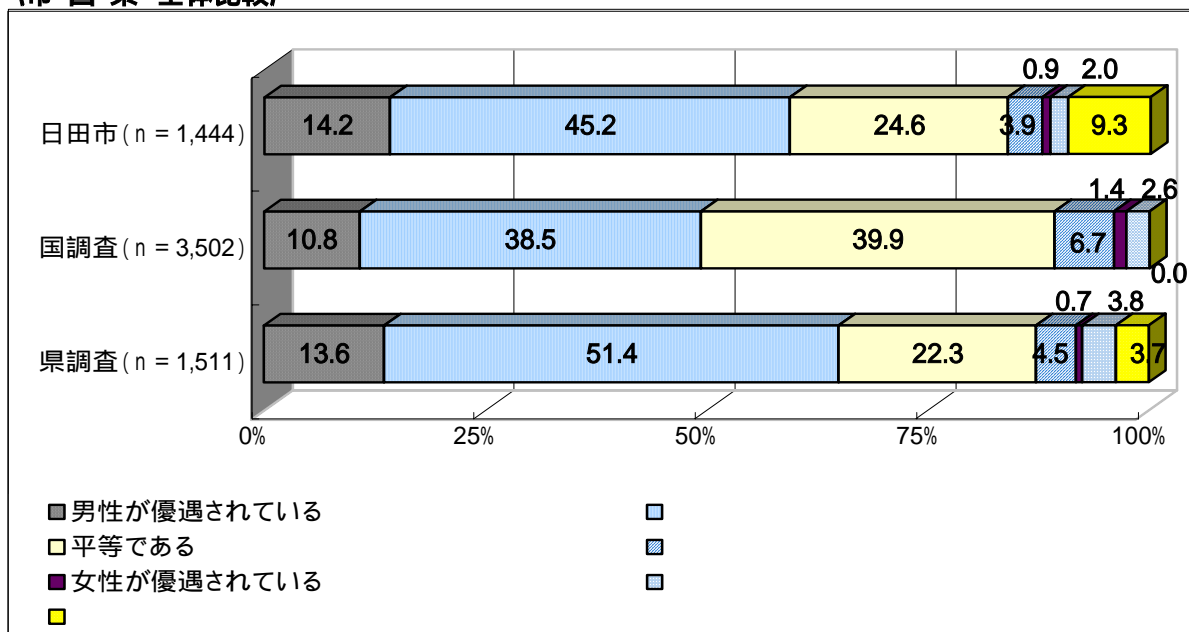
a 家庭生活で

全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 45.2%で最も多く、次いで「平等である」が 24.6%、「男性が優遇されている」14.2%と続いている。

性別にみると、女性では「男性が優遇されている」との回答が男性に比べ多く（女性 17.6%男性 10.4%）、一方、男性では「平等である」との回答が女性に比べ多く（女性 20.5%男性 30.6%）、家庭生活における男性優遇感は女性に強いことがうかがえる。



(市・国・県 全体比較)

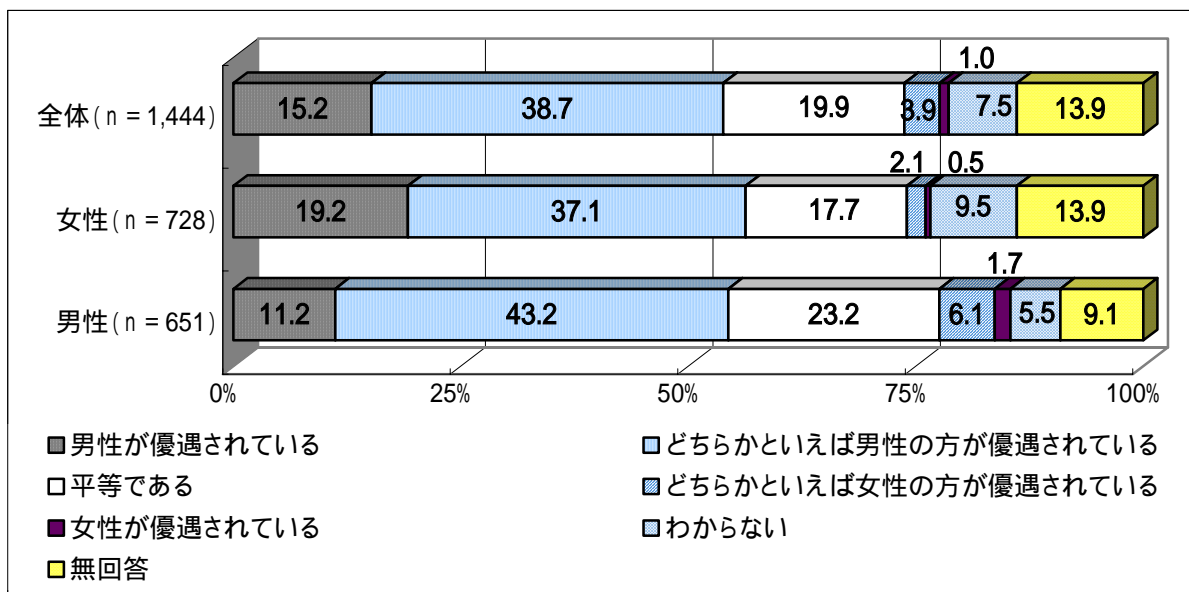


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

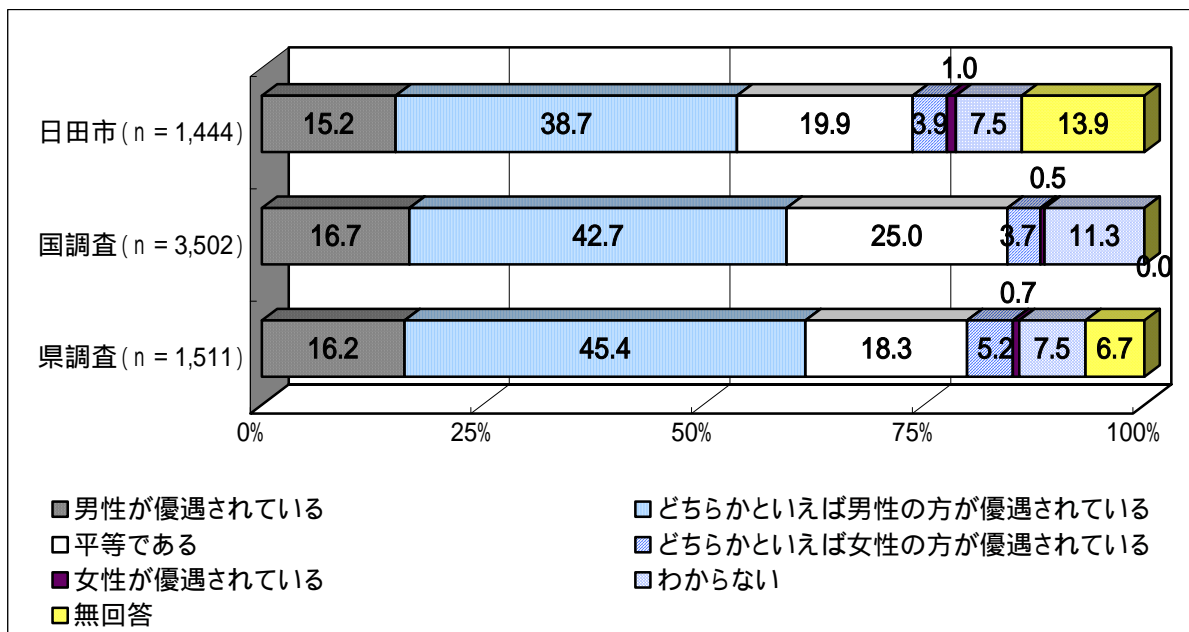
b 職場で

全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 38.7%と最も高く、次に「平等である」19.9%、「男性が優遇されている」15.2%と続いている。

性別にみると、いずれも『男性が優遇されている』（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性が優遇されている」）との回答が多いが（女性 56.3%男性 54.4%）、
「平等である」及び『女性が優遇されている』（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」+「女性が優遇されている」）と回答した割合は女性に比べ男性が高くなっており（女性 2.6%男性 7.8%）、男女間で職場の平等感に差があることがうかがえる。



(市・国・県 全体比較)

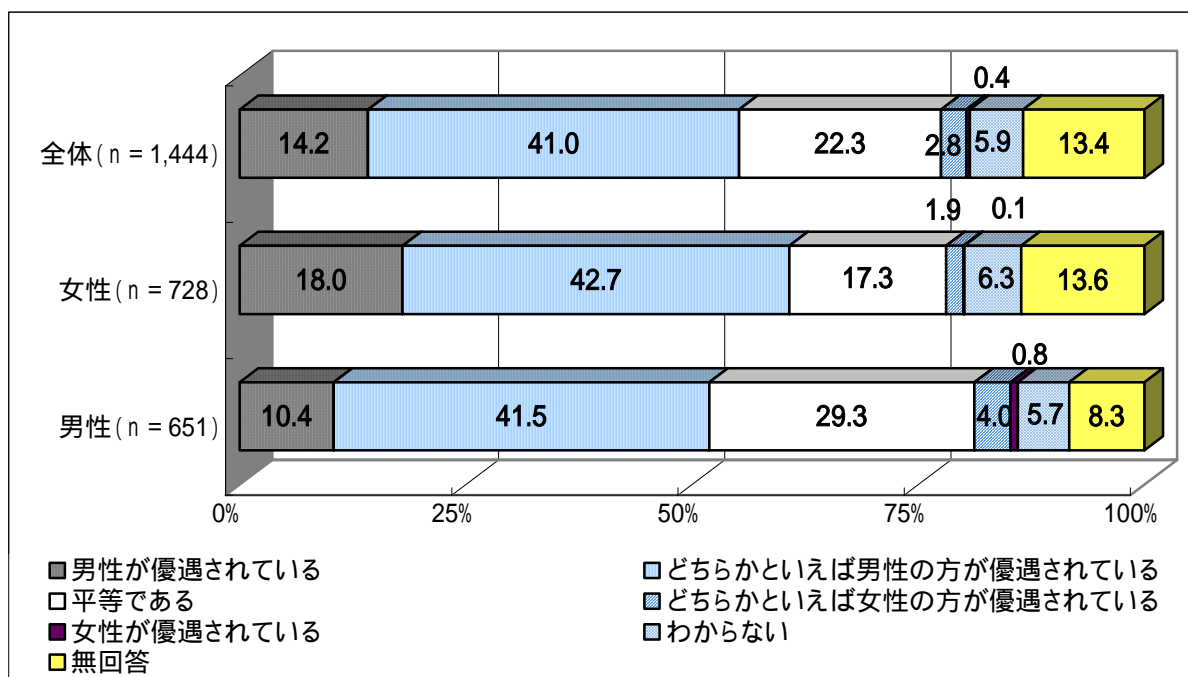


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

c 地域で

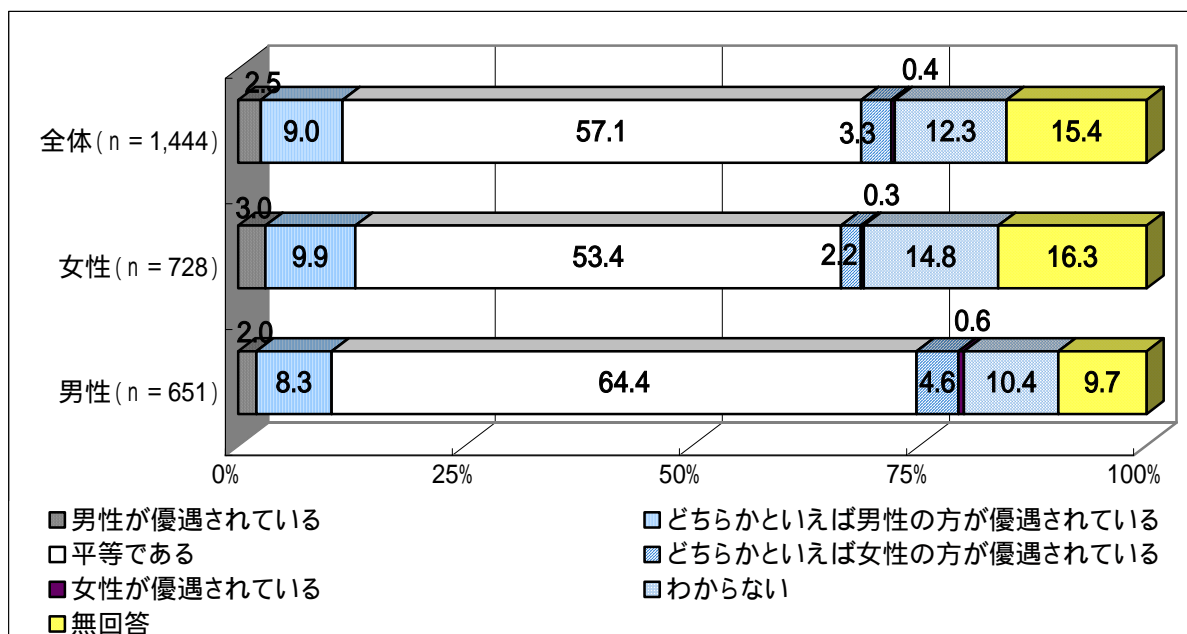
全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が41.0%で最も高く、次いで「平等である」22.3%、「男性が優遇されている」14.2%と続いている。

性別にみると、いずれも『男性が優遇されている』との回答が最も多く（女性 60.7% 男性 51.9%）、特に女性でその割合は高くなっている。一方、「平等である」と回答した割合は女性に比べ男性が12ポイント高くなっており（女性 17.3% 男性は 29.3%）、地域における男性の優遇感は女性に強いことがうかがえる。

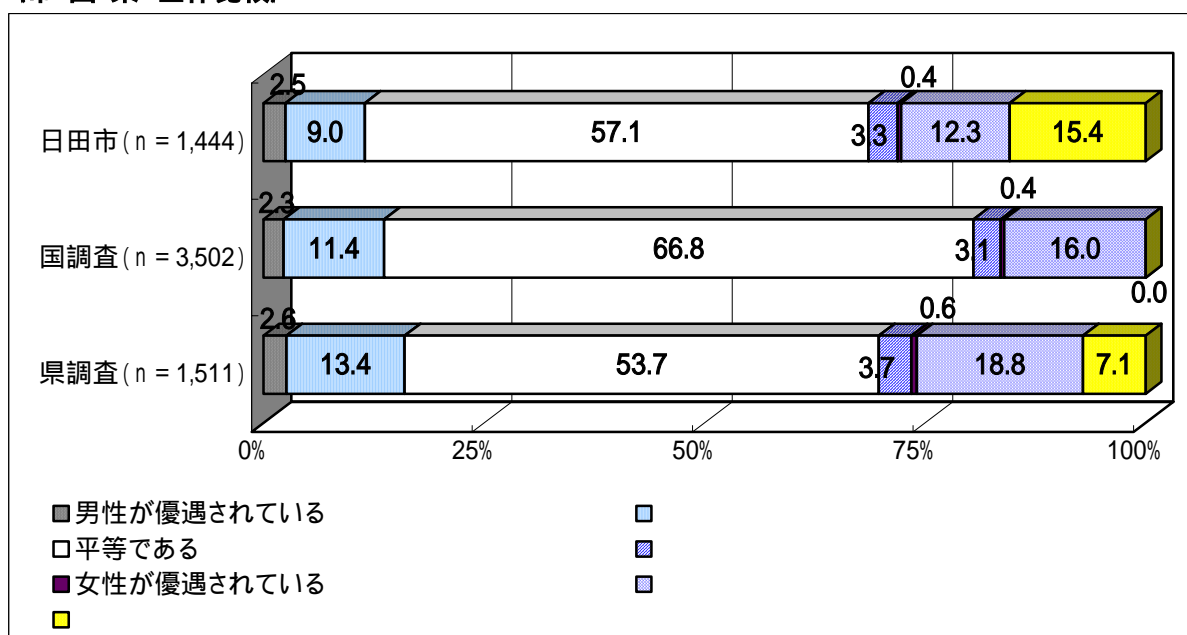


d 学校教育で

全体では「平等である」との回答が過半数を占めており（57.1%）、他の分野に比べ最も男女の平等感が強い分野となっている。また、性別にみてもいずれも「平等である」と回答が最も高く（女性 53.4% 男性は 64.4%）、特に男性にその傾向が強いことがうかがえる。



(市・国・県 全体比較)

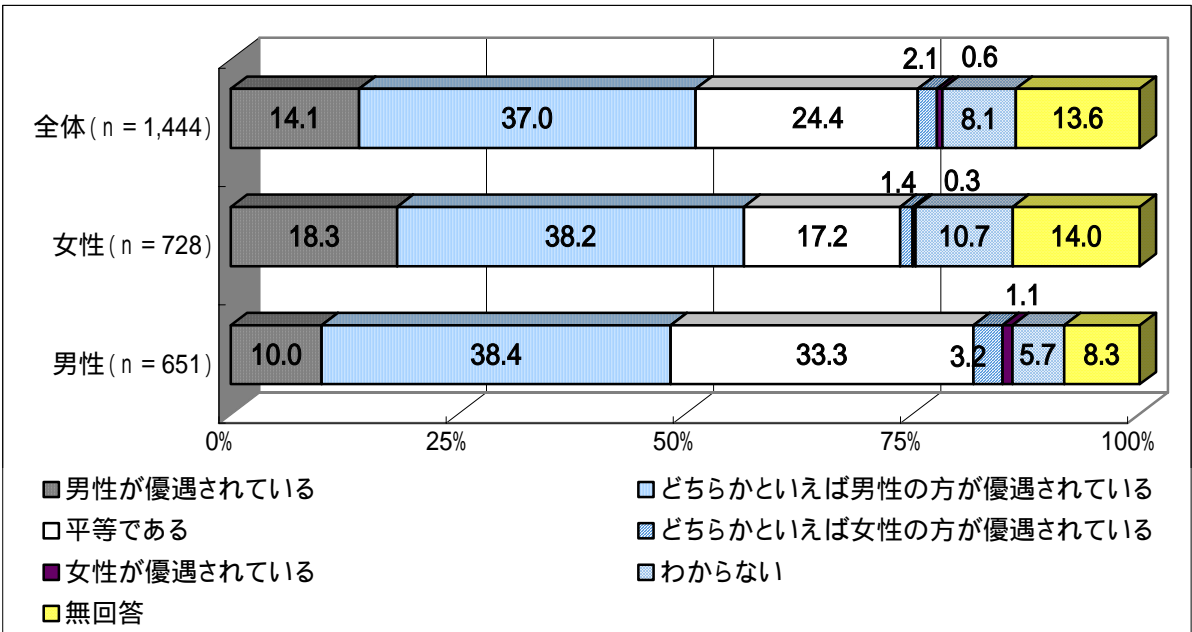


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

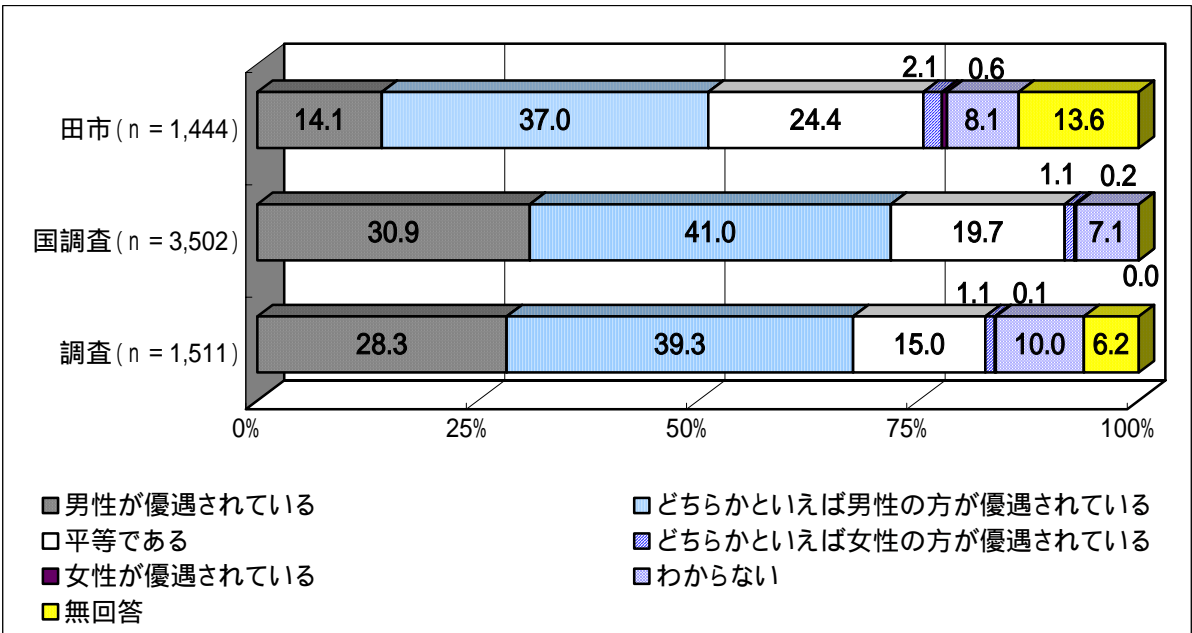
e 政治の場で

全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が37.0%で最も高く、次いで「平等である」24.4%、「男性が優遇されている」14.1%と続いている。

性別にみると、女性は男性に比べ「男性が優遇されている」との回答が多くなっているが（女性18.3%男性は10.0%）、「平等である」と回答した割合は、男性の半数程度に留まっており（女性17.2%男性は33.3%）、政治の場では女性で男性の優遇感が強くなっている。



(市・国・県 全体比較)

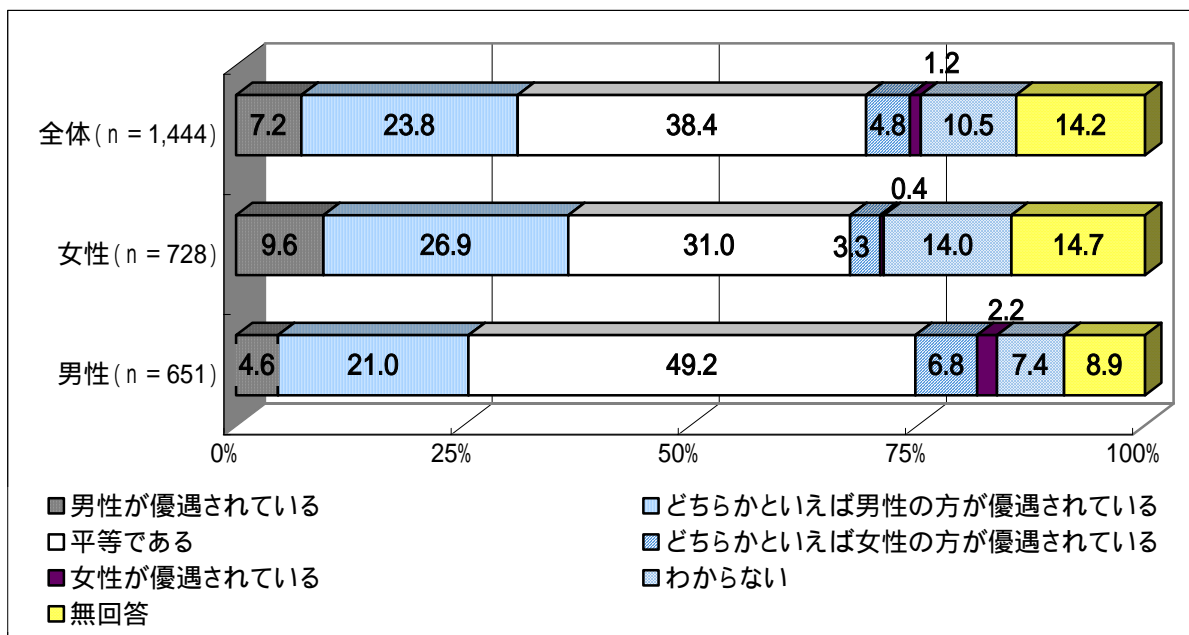


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

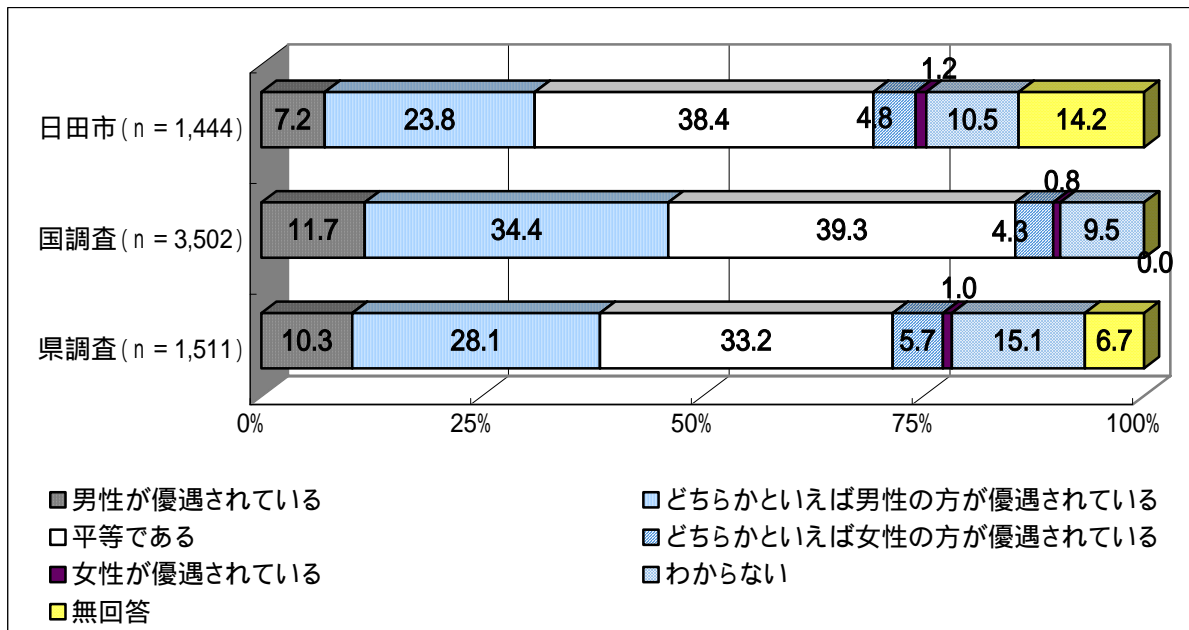
f 法律や制度上で

全体では「平等である」との回答が最も多く（38.4%）、他の分野に比べ男女の平等感が高い結果となっている。

性別にみると、女性では『男性が優遇されている』との回答が最も多いのに対し（女性 36.5%男性 25.6%）、男性では「平等である」と回答した割合が半数近くを占め最も高くなっており（女性 31.0%男性 49.2%）、比較的平等感の強い法律や制度上の分野においても、男女の意識に大きな差があることがうかがえる。



(市・国・県 全体比較)

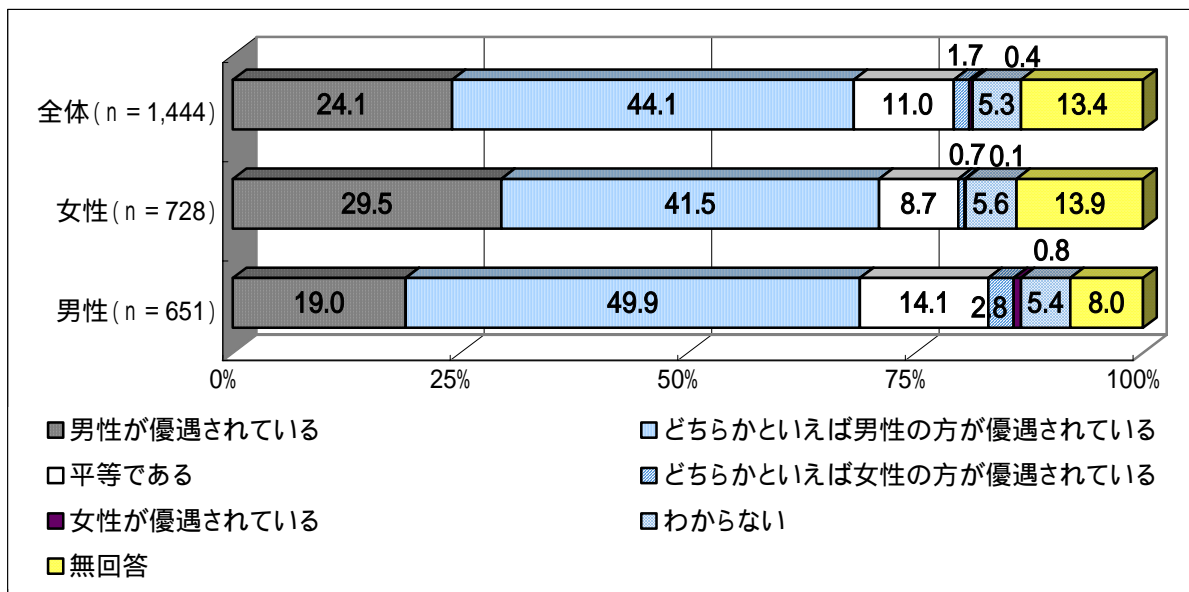


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

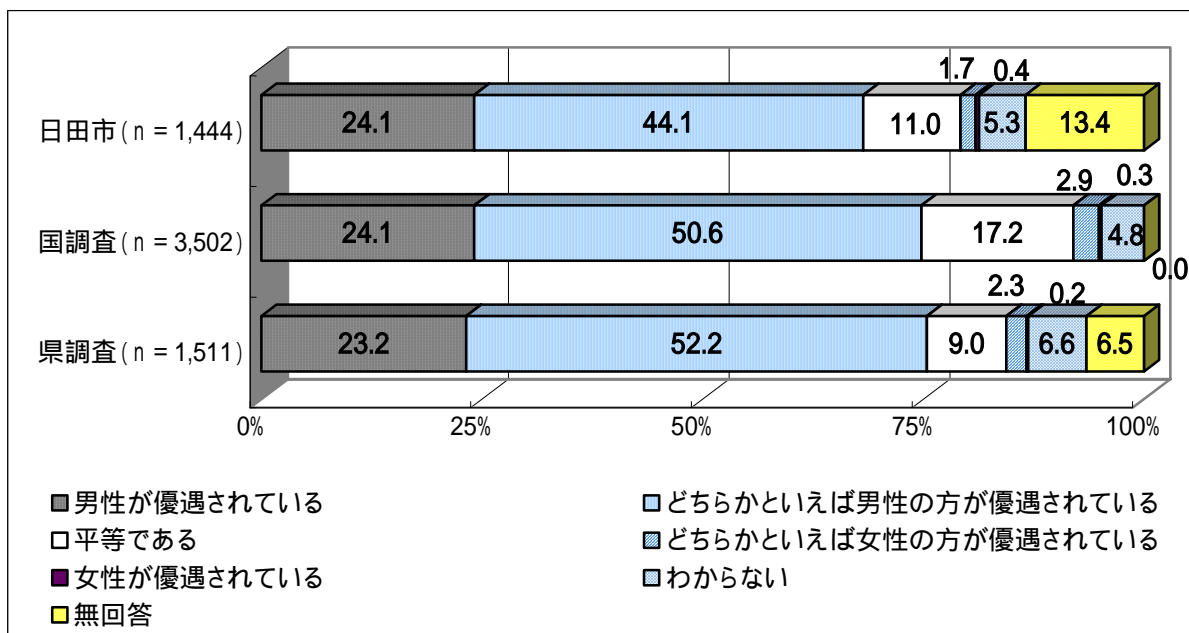
g しきたいりや社会通念で

全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が44.1%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」24.1%、「平等である」11.0%と続くが、「平等である」と回答した割合はどの分野より低くなっている。

性別にみると、いずれも『男性が優遇されている』と回答された割合が最も高くなっており（女性71.0%男性68.9%）、男女ともに男性の優遇感が最も強い分野と感じていることがうかがえる。



(市・国・県 全体比較)

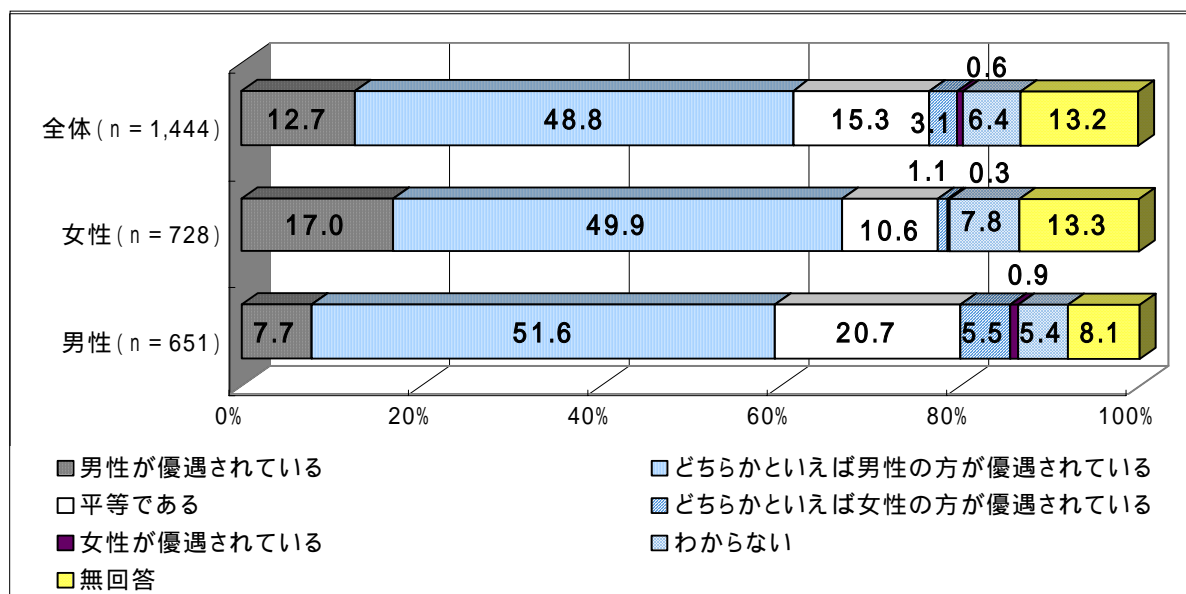


資料 平成16年内閣府世論調査、平成16年県民意識調査 ※内閣府調査は無回答の数値なし

h 社会全体で

全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合がどの分野より高い48.8%となっており、次いで「平等である」15.3%、「男性が優遇されている」12.7%の順に回答されている。

性別にみると、男女ともに『男性が優遇されている』の割合が高くなっているが（女性66.9%男性59.3%）、「平等である」の割合は女性10.6%に対し男性20.7%となっており、男女間の意識にやや差があることがうかがえる。



2. 家庭生活について

(1) 家庭生活の分担状況

問3 2 あなたの家庭では、次の役割分担を主に誰がしていますか。(単一回答)

(結婚している方(事実婚を含む)のみ回答)

～ 家庭内では大部分を妻が担当 ～

家庭内における役割分担の現状をみると、「町内行事等への参加」「育児・子どものしつけ」を除く7項目で「主に妻」と回答されており、女性の家事負担が大きい結果となっている。一方、理想では「食事のしたく」以外の8項目で「夫婦で共同」と回答され、特に「育児・子どものしつけ」、「PTAへの出席」、「町内会への参加」、「高齢者の世話・介護」でその割合は高くなっており、現実と理想に大きな開きあることがうかがえる。

性別・項目別でみると、「食事のしたく」は現状でも理想でも「主に妻」との回答が男女ともに多いが、「育児・子どものしつけ」で女性の回答は「主に妻」が多い現状に対し男性は「夫婦で共同」が多く、また、「町内行事等への参加」で女性は「夫婦で共同」が多い現状に対し男性は「主に夫」が多いなど、男女間で意識の差がみられる。

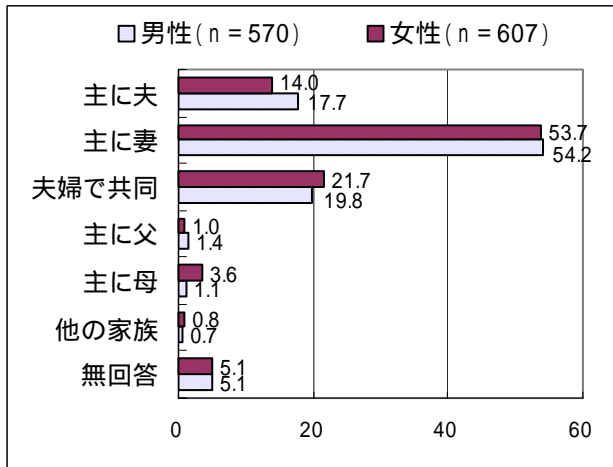
全体(n=1,210)

(回答:%)

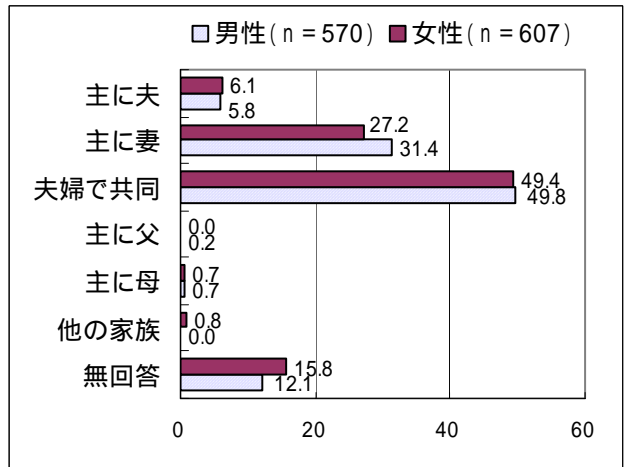
		主に夫	主に妻	夫婦で共同	主に父	主に母	他の家族	無回答
a. 家計の管理	現状	16.1	53.5	20.7	1.2	2.4	0.7	5.3
	理想	6.0	29.1	49.4	0.1	0.7	0.4	14.3
b. 食料品などの 買い物	現状	2.6	71.6	15.0	0.3	3.2	1.7	5.5
	理想	0.4	38.8	42.6	0.1	0.8	1.2	16.1
c. 食事のしたく	現状	1.7	81.3	5.0	0.1	4.7	2.0	5.2
	理想	0.3	43.7	36.8	0.0	1.5	1.8	15.9
d. 食後の片付け	現状	1.6	77.4	9.9	0.2	3.1	2.2	5.6
	理想	0.7	28.8	49.8	0.3	1.2	3.0	16.3
e. 掃除・洗濯	現状	1.2	75.0	10.8	0.2	4.9	2.1	5.8
	理想	0.7	31.7	46.0	0.1	1.8	3.1	16.5
f. 育児・子どもの しつけ	現状	1.7	34.4	37.1	0.2	1.2	1.7	23.6
	理想	1.3	5.0	66.9	0.3	0.1	1.2	25.1
g. PTAへの出席	現状	4.5	44.7	17.6	0.3	1.5	2.1	29.3
	理想	2.2	7.4	59.5	0.2	0.2	1.6	29.0
h. 町内行事等への 参加	現状	34.8	18.0	30.5	3.2	1.2	1.2	11.1
	理想	14.9	2.5	60.8	1.1	0.1	1.0	19.7
i. 高齢者の 世話・介護	現状	1.4	35.5	24.5	0.4	3.2	1.9	33.0
	理想	0.6	6.9	60.5	0.2	1.0	1.5	29.3

a. 家計の管理

[現状、回答：%]

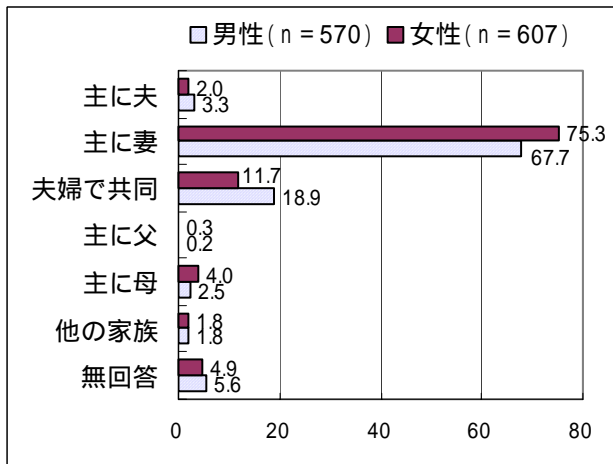


[理想、回答：%]

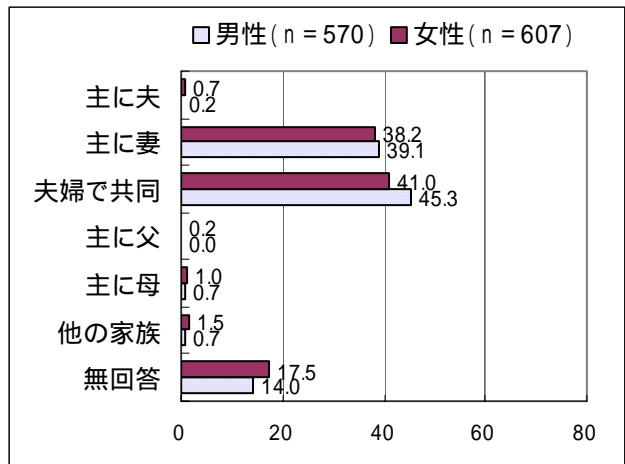


b. 食料品などの買い物

[現状、回答：%]

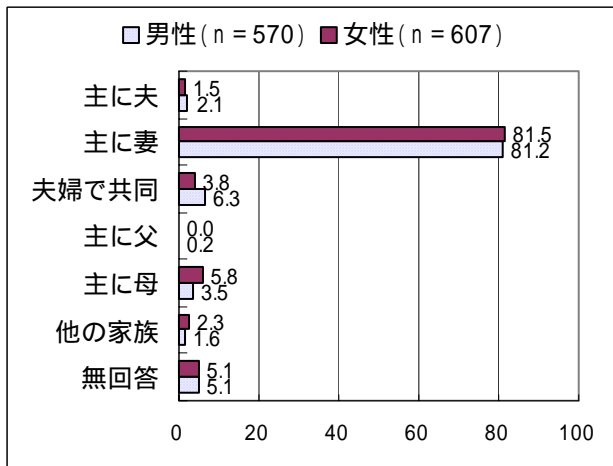


[理想、回答：%]

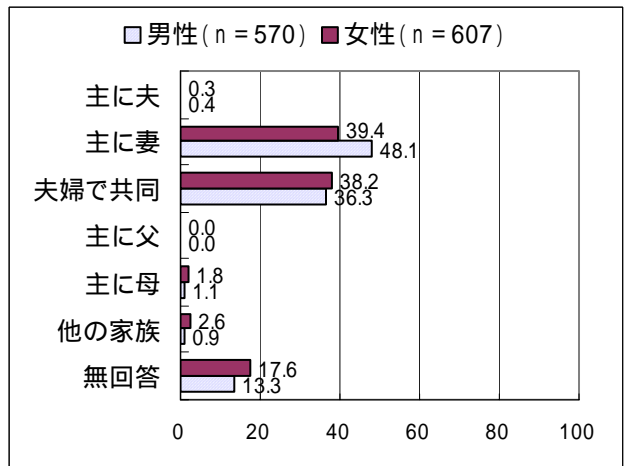


c. 食事のしたく

[現状、回答：%]

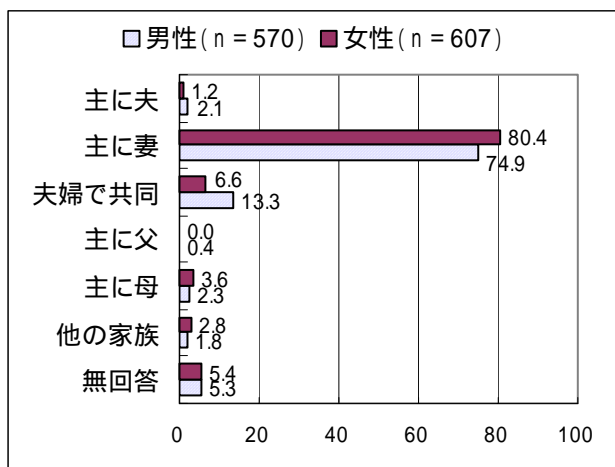


[理想、回答：%]

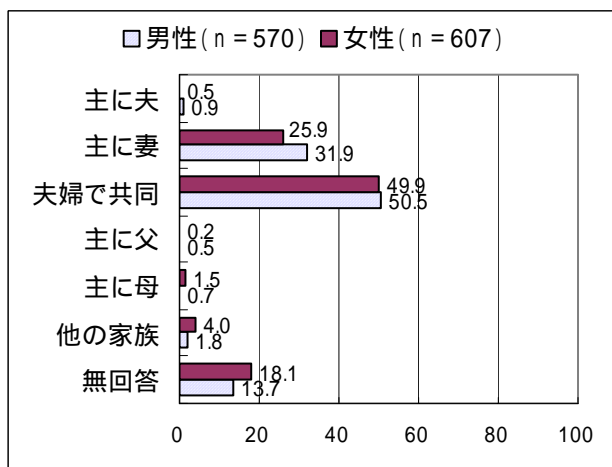


d. 食後の片付け

[現状、回答：%]

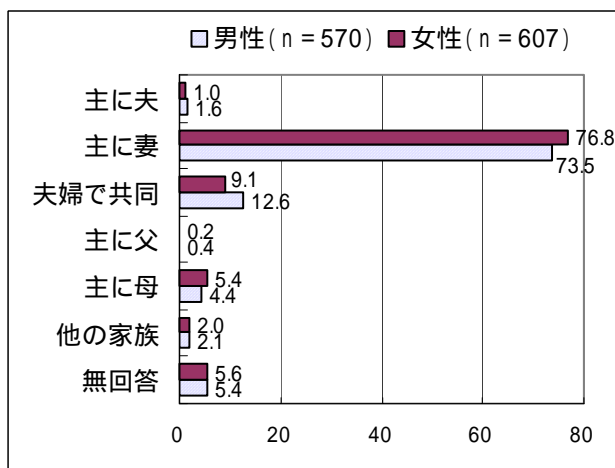


[理想、回答：%]

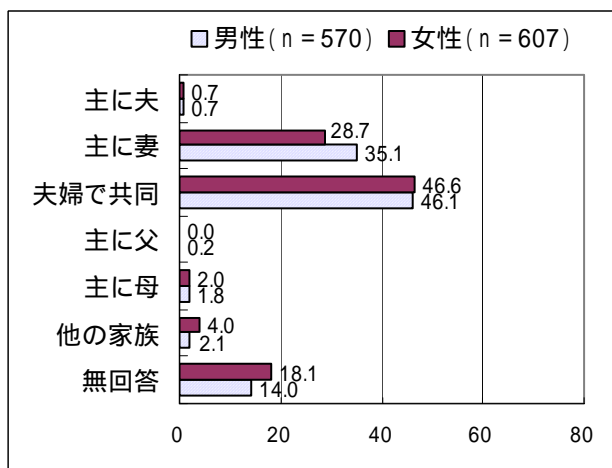


e. 掃除・洗濯

[現状、回答：%]

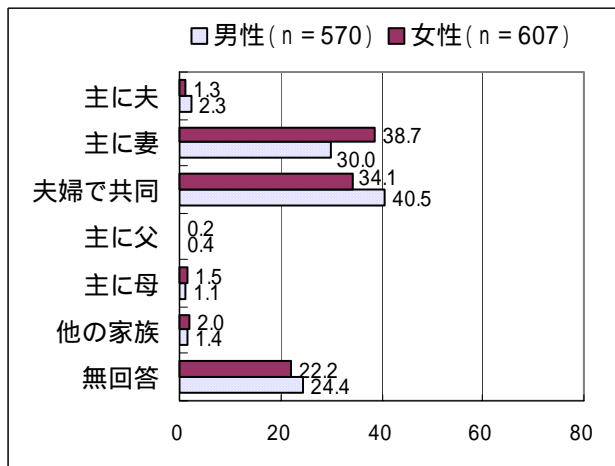


[理想、回答：%]

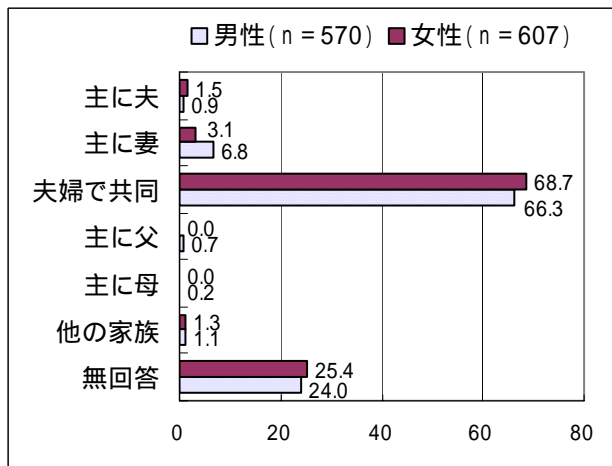


f. 育児・子どものしつけ

[現状、回答：%]

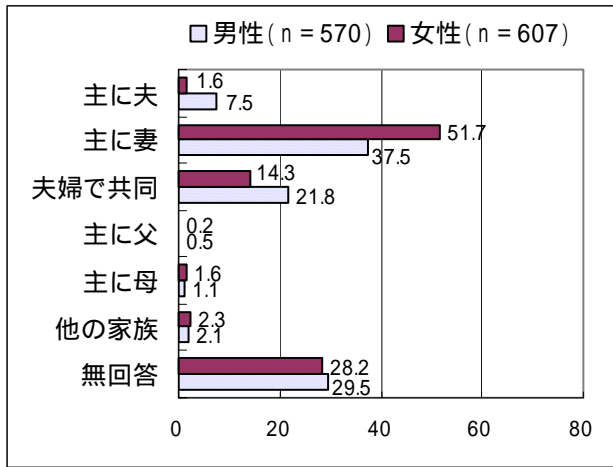


[理想、回答：%]

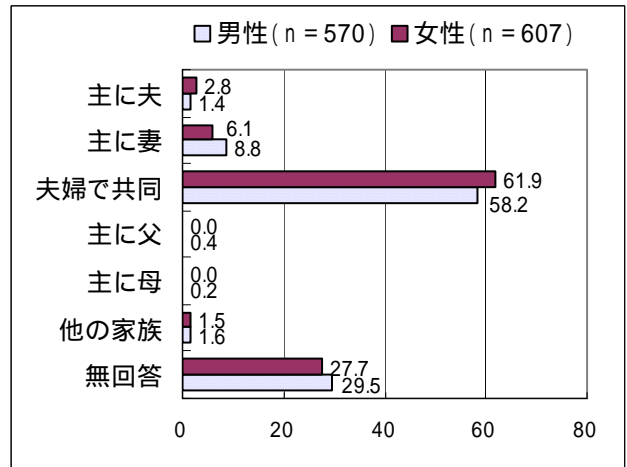


g. P T Aへの出席

[現 状、回答：%]

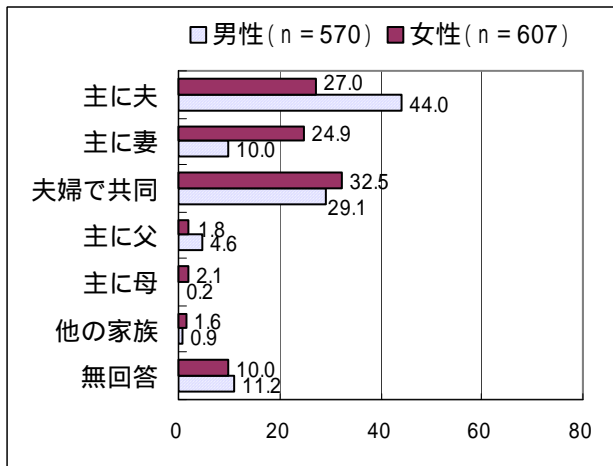


[理 想、回答：%]

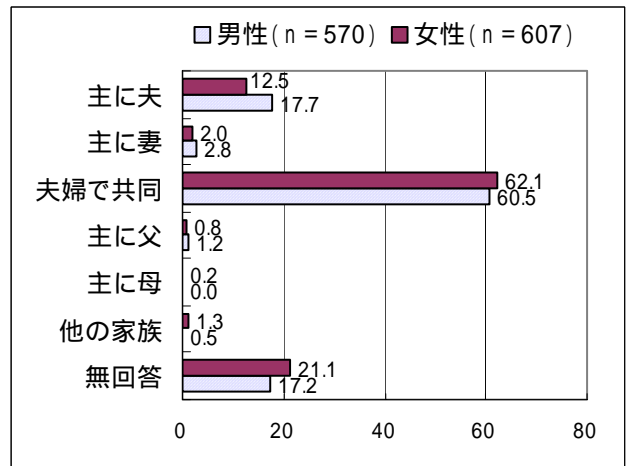


h. 町内行事等への参加

[現 状、回答：%]

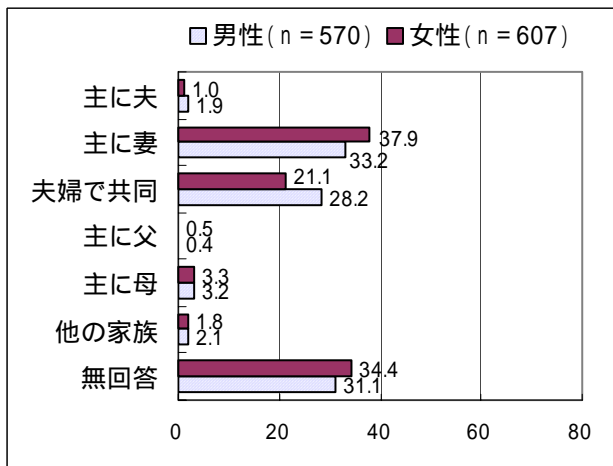


[理 想、回答：%]

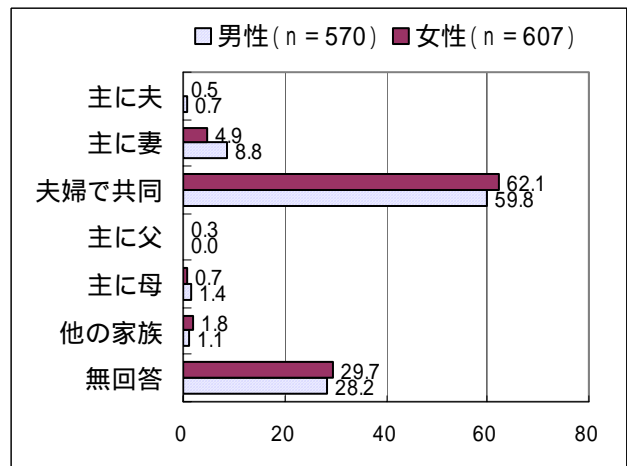


i. 高齢者の世話・介護

[現 状、回答：%]



[理 想、回答：%]



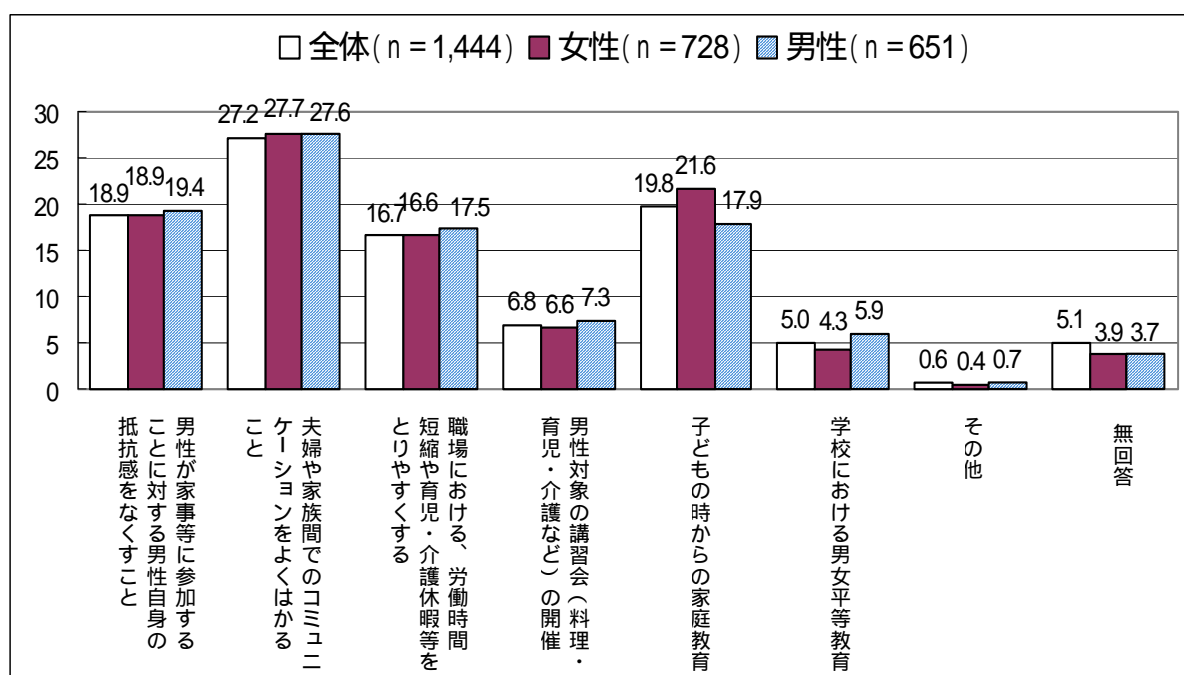
(2) 男性が参画に必要な取り組み

問33 男性が女性とともに家事、育児、介護等に参加するには何が必要だと思いますか。
(2つまで回答)

～ 男性の家事参加には「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が必要 ～

男性が女性とともに家事・育児・介護等に参加するために必要なことを全体で見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と回答した割合は27.2%で最も高く、次いで「子どもの時からの家庭教育」19.8%、「男性自身の抵抗感をなくす」18.9%と続いている。

性別にみると、女性では「夫婦や家族間でのコミュニケーション」や「子どもの時からの家庭教育」が必要との回答が男性に比べ多いのに対し、男性では「家事等参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」、「職場における労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする」、「男性対象の講習会の開催」、「学校における男女平等教育」が女性に比べ多く回答されており、男性は家庭以外での取り組みが必要と感じていることがうかがえる。



3. 仕事について

(1) 就業状況

問34 あなたと仕事(農林業 サービス業等、自営業を含む)の関係は次のどれですか。

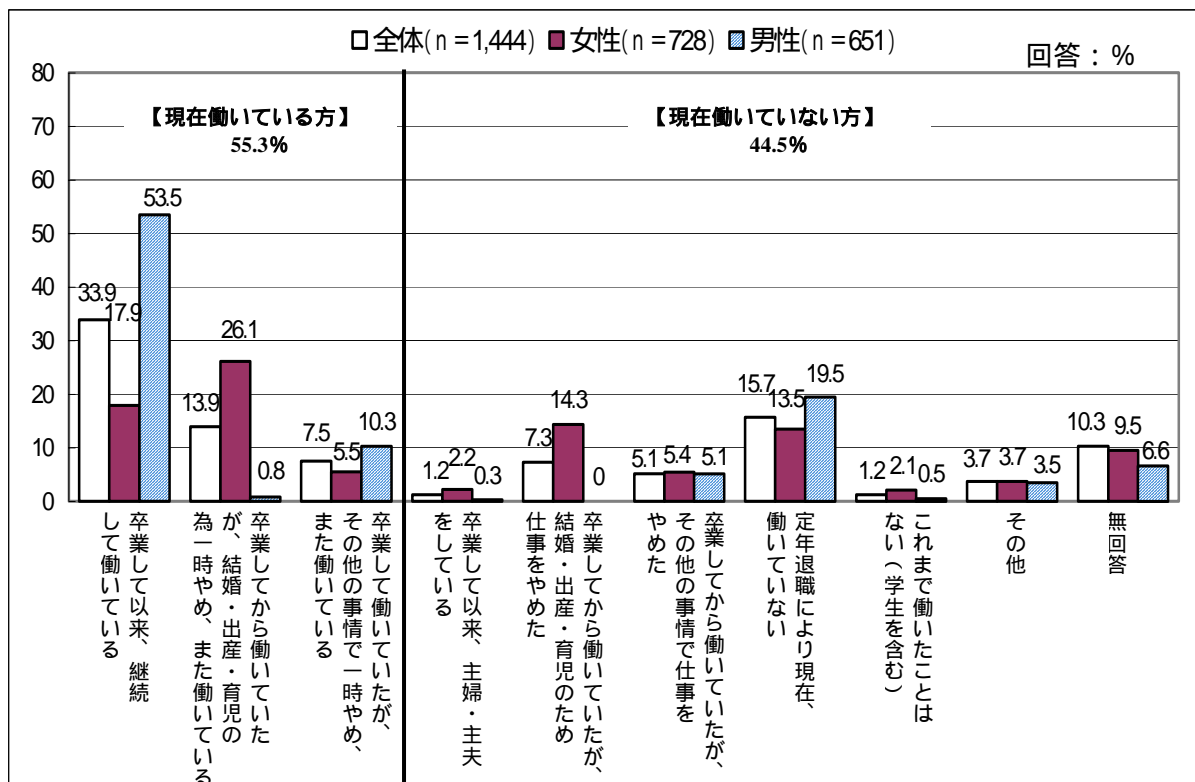
(単一回答)

～ 男性は継続して働き続けるが、

女性は結婚・出産・育児で一旦止め、その後、再び働くケースが多い ～

現在働いている人の仕事の関係を全体みると、「卒業して以来、継続して働いている」との回答が最も多いが、その割合は男性が53.5%と半数を占めているのに対し、女性では17.9%となっており、男女間の働き方に大きな差があることがわかる。又、現在働いていない人では、「定年退職による」と回答した人が最も多いものの、女性では「結婚・出産・育児のためにやめた」が14.3%で最も高い割合を占めている。

性別・年齢別でみると、女性では20歳代で「継続して働いている」が50.0%と最も多く、30～50歳代では「卒業してから働いたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」との回答が多くなっている。また30歳代で現在働いていない人では、「結婚・出産・育児のためにやめた」と回答した割合が32.4%で最も高くなっており、女性は30歳代で結婚・出産・育児のため一時仕事をやめ、その後、再度働きはじめるケースが多いことがわかる。一方、男性では、全ての年代で「卒業して以来、継続して働いている」が最も多くなっており、働き方は男女間で大きく違っていることがうかがえる。



仕事との関係

(調査数：件数、回答：%)

		調査数	卒業して以来、継続して働いている	卒業して以来、一時やめ、また働いている	卒業して以来、働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている	卒業して以来、主婦・主夫をしている	卒業して以来、育児のため仕事をやめた	卒業して以来、結婚・出産・事情で仕事をやめた	卒業して以来、働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	定年退職により現在働いていない	(学生を含む) これまで働いたことはない	その他	無回答
全 体		1,444	33.9	13.9	7.5	1.2	7.3	5.1	15.7	1.2	3.7	10.3	
女性	20歳代	52	50.0	5.8	15.4	0.0	15.4	5.8	0.0	7.7	0.0	0.0	
	30歳代	74	12.2	37.8	14.9	0.0	32.4	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	
	40歳代	118	22.0	44.9	5.1	0.0	18.6	1.7	0.0	1.7	3.4	2.5	
	50歳代	154	18.2	46.1	7.1	3.2	9.7	7.1	1.9	1.3	2.6	2.6	
	60歳代	149	15.4	16.1	2.0	2.0	12.1	6.7	32.9	0.7	5.4	6.7	
	70歳以上	181	9.9	6.1	0.6	4.4	9.4	6.6	25.4	3.3	6.1	28.2	
女 性 計		728	17.9	26.1	5.5	2.2	14.3	5.4	13.5	2.1	3.7	9.5	
男性	20歳代	38	44.7	0.0	34.2	0.0	0.0	10.5	0.0	7.9	2.6	0.0	
	30歳代	66	68.2	0.0	21.2	0.0	0.0	7.6	0.0	0.0	1.5	1.5	
	40歳代	99	75.8	2.0	11.1	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	1.0	7.1	
	50歳代	141	75.9	1.4	10.6	0.0	0.0	6.4	0.0	0.0	1.4	4.3	
	60歳代	139	46.0	0.7	6.5	0.7	0.0	4.3	30.2	0.0	5.0	6.5	
	70歳以上	166	23.5	0.0	3.0	0.6	0.0	3.6	51.2	0.0	6.6	11.4	
	年齢無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
男 性 計		651	53.5	0.8	10.3	0.3	0.0	5.1	19.5	0.5	3.5	6.6	
性別無回答	40歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	60歳代	5	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	
	70歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	66.7	
	年齢無回答	53	20.8	3.8	3.8	0.0	1.9	1.9	1.9	0.0	5.7	60.4	
性別無回答計		65	18.5	7.7	3.1	0.0	3.1	1.5	3.1	0.0	6.2	56.9	

(2) 今後の就業希望

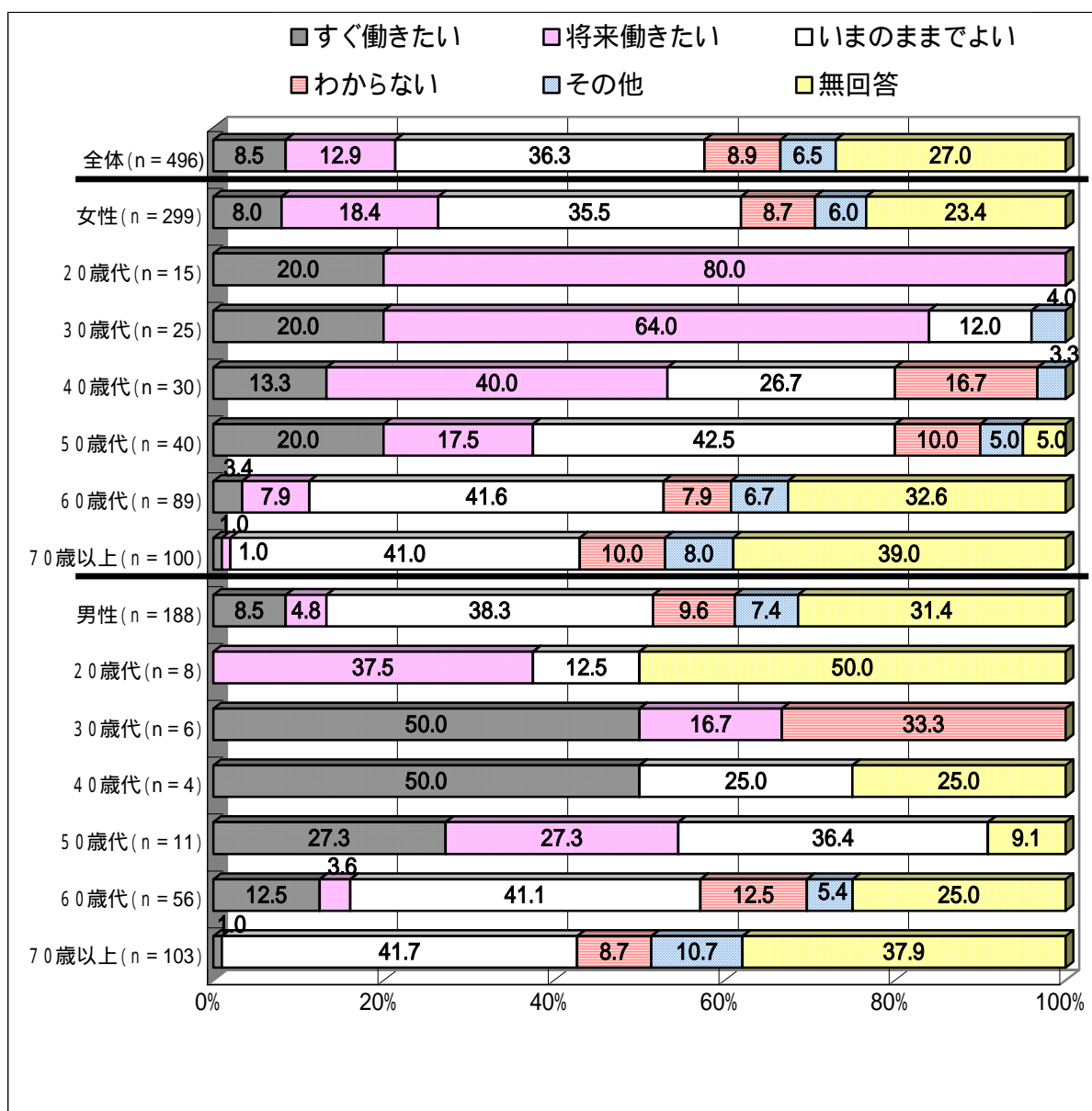
問 3 5 あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。(単一回答)

(現在働いていない方のみ回答)

～ 女性の20～40代は「将来働きたい」、

男性の30～40代は「直ぐ働きたい」と考えている ～

今後の仕事についての考えを性別・年齢別にみると、女性では「将来働きたい」と回答した割合が20歳代で80.0%、30歳代64.0%、40歳代40.0%と各年代で最も高い割合を占めている。一方、男性の20歳代では「将来働きたい」が37.5%で最も高くなっているが、30～40歳代では「直ぐ働きたい」が過半数を超え最も多く回答されている。また、50歳代以上では「今のままでよい」との回答が男女ともに多くなっている。

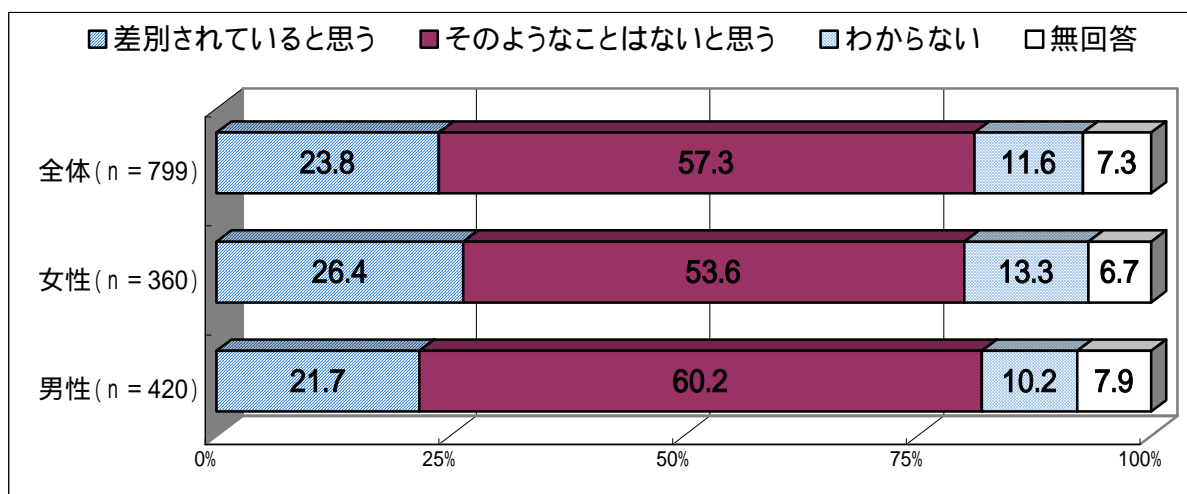


(3) 職場における男女差別

問36 あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。(単一回答)

～ 全体の23.8%が「差別されている」と回答 ～

職場における女性への差別についての問いであるが、全体では「そのようなことはないと思う」との回答が過半数を越え(57.3%)、次ぐ「差別されていると思う」(23.8%)を大きく上回る結果となっている。これを性別にみると、女性は男性に比べ「差別されていると思う」との割合が高くなっており(女性26.4%男性21.7%)、女性に差別感が強いことがうかがえる。



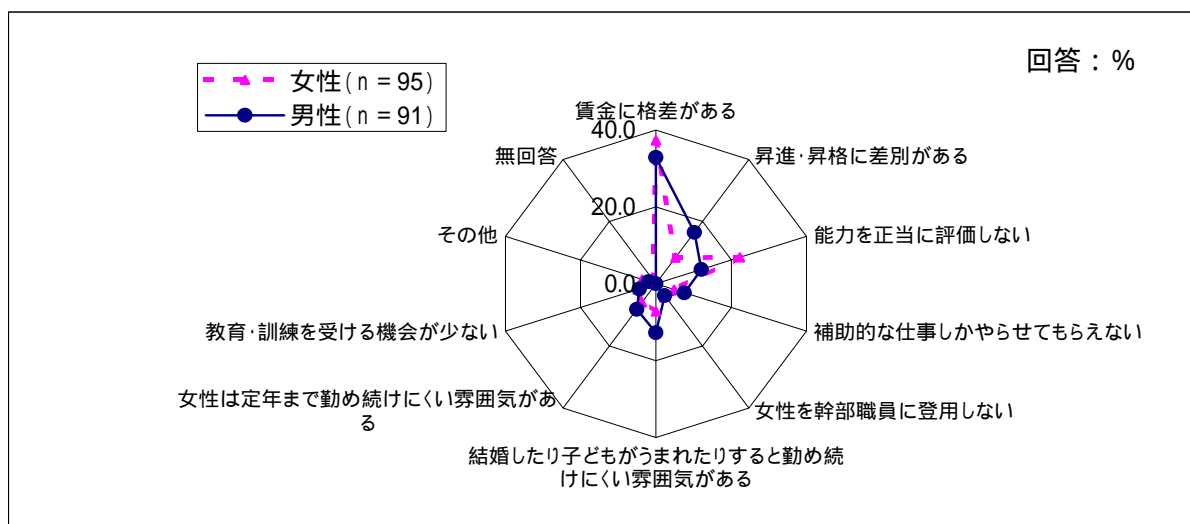
(4) 職場における男女格差

問37 具体的にどのようなことですか。(2つまで回答)

(問36で「1.差別されていると思う」と答えた方のみ回答)

～ 「賃金に格差がある」が最も多い ～

差別の具体的な内容を性別にみると、男女ともに「賃金に格差がある」との回答が最も多いが、その割合は「能力を正当に評価しない」と同様、女性が男性に比べ高くなっている。一方、男性では「昇給・昇格に差別がある」、「結婚したり子どもがうまれたりすると勤めにくい雰囲気がある」との回答が女性より多くなっており、男女間で差別意識の違いがみられる。



(回答：%)

	賃金に格差がある	昇進・昇格に差別がある	能力を正当に評価しない	補助的な仕事しかやらせてもらえない	女性を幹部職員に登用しない	結婚したり子どもがうまれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある	女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	教育・訓練を受ける機会が少ない	その他	無回答
全体 (n = 190)	35.2	12.3	17.5	6.3	4.2	9.6	6.9	4.5	2.7	0.6
女性 (n = 95)	37.3	8.4	22.3	4.8	4.2	7.2	6.0	4.8	3.6	1.2
男性 (n = 91)	32.9	16.5	12.0	7.6	3.8	12.7	8.2	4.4	1.9	0.0

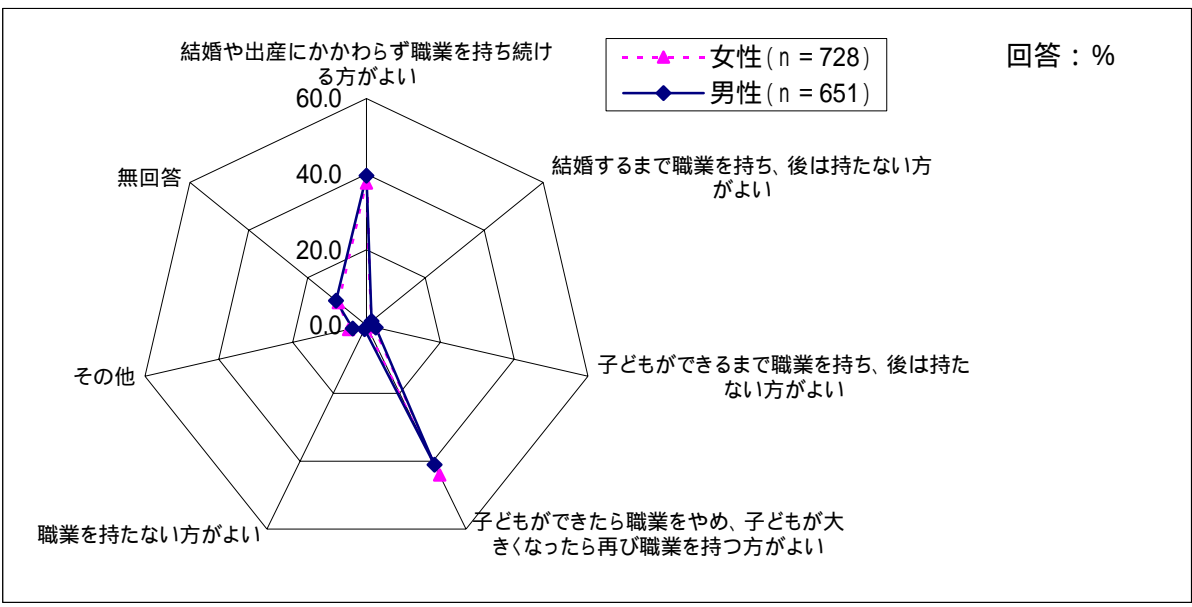
(5) 女性の就業に対する考え方

問38 あなたは、女性が職業を持つことをどう思いますか。(単一回答)

～ 子どもができたなら一時中断し、その後再び働くことを望んでいる ～

女性が職業を持つことについては、男女ともに「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」となっており、その割合は他を大きく上回っている。

これを年齢別で見ると、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答は年齢が高いほど多く、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」は若い層ほど多くなっている。



(回答：%)

	結婚や出産にかかわらず職業を続ける方がよい	結婚するまで職業を持ち、後は持たない方がよい	子どもができるまで職業を持ち、後は持たない方がよい	子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい	職業を持たない方がよい	その他	無回答
全体 (n = 1,444)	37.5	1.7	2.1	41.8	0.7	4.1	12.2
女性 (n = 728)	37.6	1.6	1.9	44.1	0.3	4.8	9.6
男性 (n = 651)	39.6	1.8	2.5	41.0	1.1	3.7	10.3

女性の就業に対する考え方

(調査数：件数、回答：%)

		調査数	方がよい 結婚や出産にかかわらず職業を 持ち続ける	よい 結婚するまで職業を持ち、 後は持たない方が	いい方がよい 子どもができるまで職業を 持ち、後は持たない	子どもができたら再び職業を 持つ方がよい	子どもができたら職業をやめ、 子どもが大きくなったら再び職業を持つ 方がよい	職業を持たない方がよい	その他	無回答
全 体		1,444	37.5	1.7	2.1	41.8	0.7	4.1	12.2	
女性	20歳代	52	53.8	1.9	0.0	34.6	0.0	9.6	0.0	
	30歳代	74	48.6	1.4	0.0	41.9	0.0	8.1	0.0	
	40歳代	118	45.8	0.8	0.8	39.8	0.0	9.3	3.4	
	50歳代	154	42.9	1.3	0.6	49.4	0.0	3.2	2.6	
	60歳代	149	33.6	2.7	2.7	51.0	0.0	3.4	6.7	
	70歳以上	181	22.1	1.7	4.4	40.3	1.1	1.7	28.7	
女 性 計		728	37.6	1.6	1.9	44.1	0.3	4.8	9.6	
男性	20歳代	38	44.7	5.3	0.0	31.6	2.6	10.5	5.3	
	30歳代	66	56.1	3.0	3.0	25.8	0.0	10.6	1.5	
	40歳代	99	47.5	1.0	2.0	39.4	0.0	5.1	5.1	
	50歳代	141	34.8	0.7	0.7	51.1	0.7	4.3	7.8	
	60歳代	139	42.4	2.9	2.2	42.4	2.2	0.7	7.2	
	70歳以上	166	29.5	1.2	4.8	40.4	1.2	0.6	22.3	
	年齢無回答	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	
男 性 計		651	39.6	1.8	2.5	41.0	1.1	3.7	10.3	
性別無回答	40歳代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	60歳代	5	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	
	70歳以上	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	
	年齢無回答	53	13.2	1.9	0.0	24.5	1.9	0.0	58.5	
性別無回答計		65	13.8	1.5	0.0	23.1	1.5	0.0	60.0	

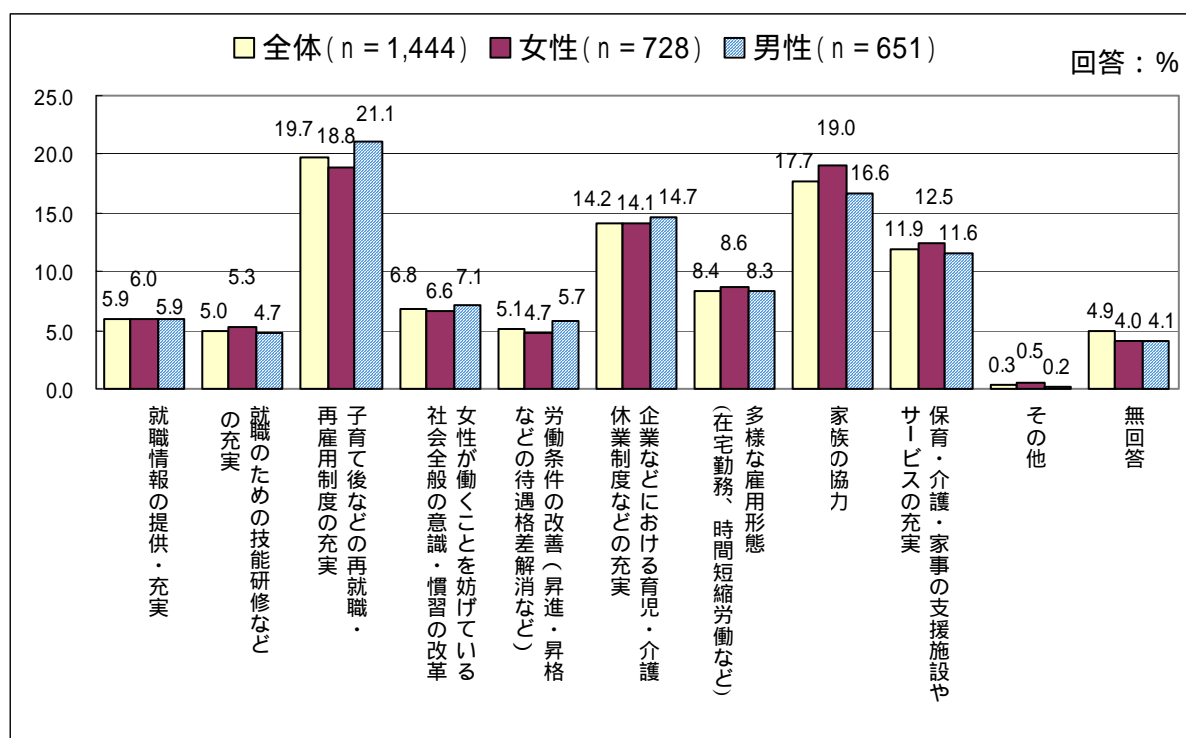
(6) 女性への就業支援

問39 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。(3つまで回答)

～ 子育て後の再就職・再雇用制度の充実が必要との声が多い ～

女性が働き続けるために必要な支援等で全体で最も多いのは「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」で19.7%、次いで「家族の協力」17.7%、「企業などにおける育児・介護休暇制度などの充実」14.2%と続いている。

性別・年齢別にみると、女性では「家族の協力」との回答が最も多く、中でも40～50歳代にその傾向が強くみられる。一方、男性では、いずれの年代も「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」が最も多く、続く「家族の協力」では年齢が高くなるほど多くなっている。



女性への就業支援についての考え方

(調査数：件数、回答：%)

		調査数	就職情報の提供・充実	再就職のための技能研修などの充実	子育て後などの再就職・再雇用制度の充実	女性が働くことを妨げている社会全般の意識・慣習の改革	労働条件の改善(昇進・昇格などの待遇格差解消など)	企業などにおける育児・介護休業制度などの充実	多様な雇用形態(在宅勤務、時間短縮労働など)	家族の協力	保育・介護・家事の支援施設やサービスの実施	その他	無回答
全 体		1,444	5.9	5.0	19.7	6.8	5.1	14.2	8.4	17.7	11.9	0.3	4.9
女性	20歳代	52	4.1	2.1	18.5	8.9	2.7	18.5	11.0	15.8	17.8	0.7	0.0
	30歳代	74	3.3	6.1	21.2	5.7	7.5	15.1	12.7	15.6	11.3	1.4	0.0
	40歳代	118	5.4	4.5	18.4	5.7	6.0	14.2	12.3	20.2	12.0	0.0	1.2
	50歳代	154	5.7	4.1	19.3	5.5	4.8	13.6	8.5	22.8	14.5	0.7	0.5
	60歳代	149	7.1	6.9	19.2	8.8	3.7	15.5	5.7	17.9	12.3	0.2	2.7
	70歳以上	181	7.7	6.2	17.0	5.9	3.6	10.8	5.7	18.0	9.5	0.3	15.4
女 性 計		728	6.0	5.3	18.8	6.6	4.7	14.1	8.6	19.0	12.5	0.5	4.0
男性	20歳代	38	7.5	2.8	19.6	6.5	8.4	15.9	9.3	15.0	13.1	0.0	1.9
	30歳代	66	5.4	5.9	21.1	8.6	3.2	18.4	13.5	10.8	13.0	0.0	0.0
	40歳代	99	5.4	4.2	19.2	6.5	8.4	14.6	11.1	14.9	13.0	0.0	2.7
	50歳代	141	5.5	5.7	21.6	6.0	4.6	14.2	9.3	17.8	12.0	0.5	2.7
	60歳代	139	6.2	4.6	21.4	7.5	5.6	15.5	5.4	18.5	12.1	0.0	3.2
	70歳以上	166	6.4	3.8	21.7	7.7	5.4	12.2	5.9	18.1	8.7	0.3	9.9
	年齢無回答	2	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
男 性 計		651	5.9	4.7	21.1	7.1	5.7	14.7	8.3	16.6	11.6	0.2	4.1
性別無回答	40歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	60歳代	5	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	33.3
	70歳以上	6	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	50.0
	年齢無回答	53	5.3	4.2	15.8	5.3	2.1	9.5	6.3	11.6	7.4	1.1	31.6
性別無回答計		65	5.2	5.2	15.7	4.3	2.6	9.6	6.1	11.3	7.0	0.9	32.2

(7) 自営業者の経営方針への参画

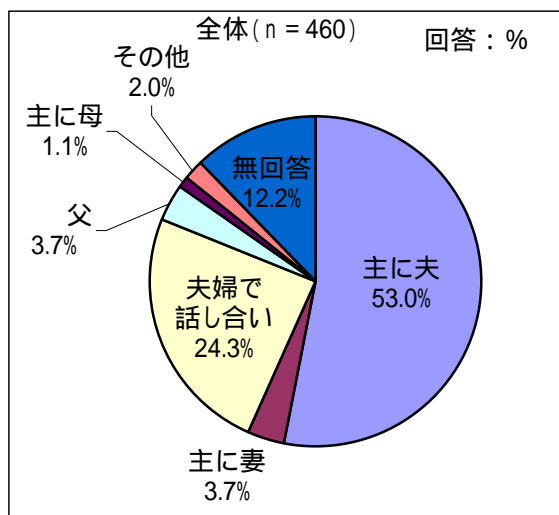
問40 事業経営の方針や取り決め等を決定するのは誰ですか。(単一回答)

(農林業・サービス業等の自営業に従事し、かつ、結婚している方のみ回答)

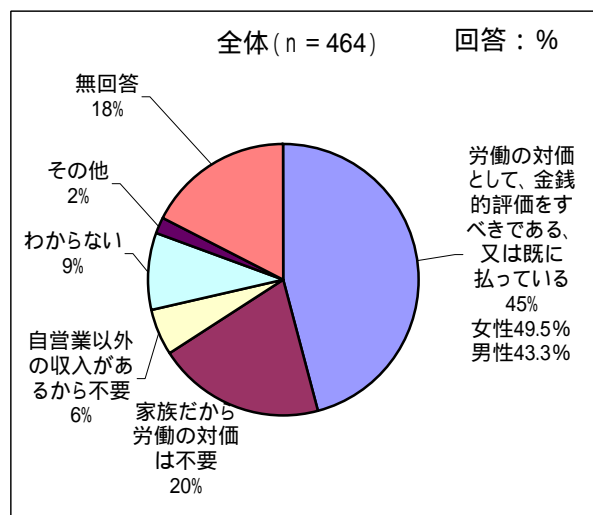
～ 経営の方針等を決めるのは「主に夫」が半数を占める ～

事業経営の方針等を誰が決定するかの問いでは、「主に夫」との回答が53.0%で最も多く、次いで「夫婦で話し合い」が24.3%となっており、全体の約8割がこのどちらかと回答している。

問40



問41



(8) 家族従事者に対する評価

問41 家族の自営業従事者に、金銭的な評価(給料支払い)をすべきだと思いますか。

(単一回答)

(家族で自営業に従事している方のみ回答)

～ 約半数が「労働の対価を金銭的な評価をすべきである」と回答 ～

家族の自営業従業者に対する金銭的な評価については、男女とも「労働の対価として、金銭的評価をすべきである、又は既に払っている」との回答が最も多く、その他の回答を大きく上回る結果となっている。

4. 地域活動について

(1) 地域における女性の参画状況

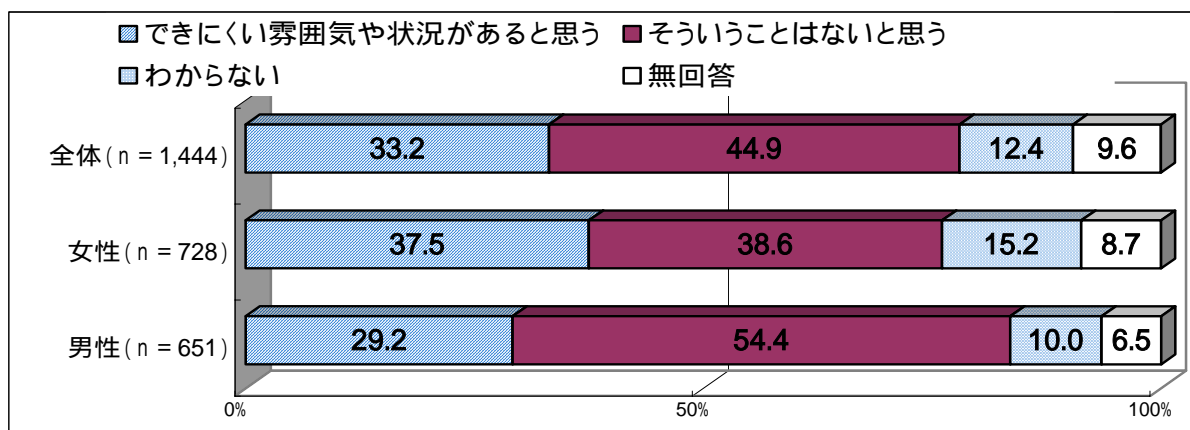
問42 自治会等地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況があると思いますか。(単一回答)

～ 「できにくい雰囲気や状況があると思う」との回答が33.2%を占める ～

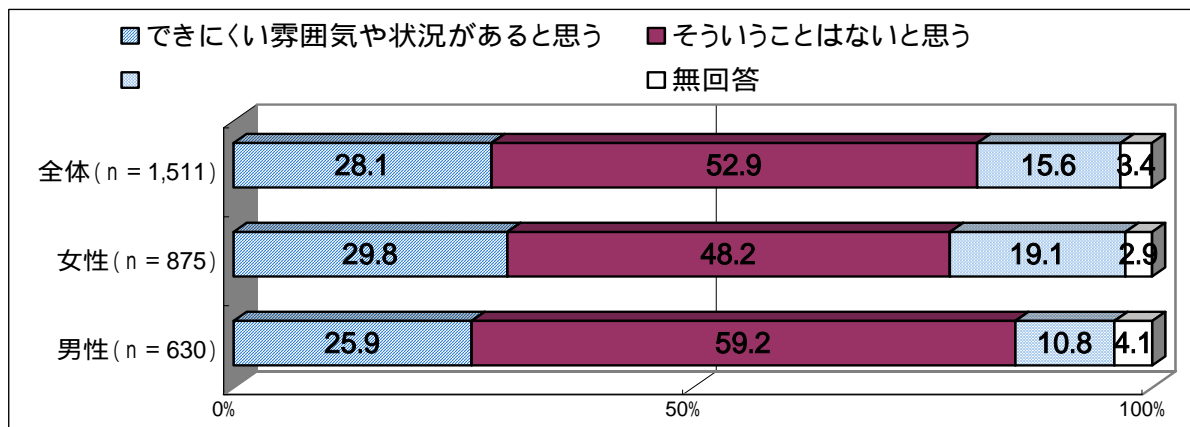
自治会等地域活動の場で女性が活動しにくい雰囲気や状況があるかを全体でみると「そういうことはないと思う」と回答した割合が44.9%で最も高いものの、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」との回答も33.2%で3割を超える結果となっている。

性別にみると「できにくい雰囲気や状況があると思う」と回答した割合は女性37.5%に対し男性は29.2%となっており、女性の方が活動しにくいと感じている状況にある。

年齢別にみると、20歳代は「わからない」が最も多いが、30～50歳代は「出来にくい雰囲気や状況があると思う」、60～70歳代では「そういうことはないと思う」との回答が多く、年齢層でその考えが大きく違う結果となっている。

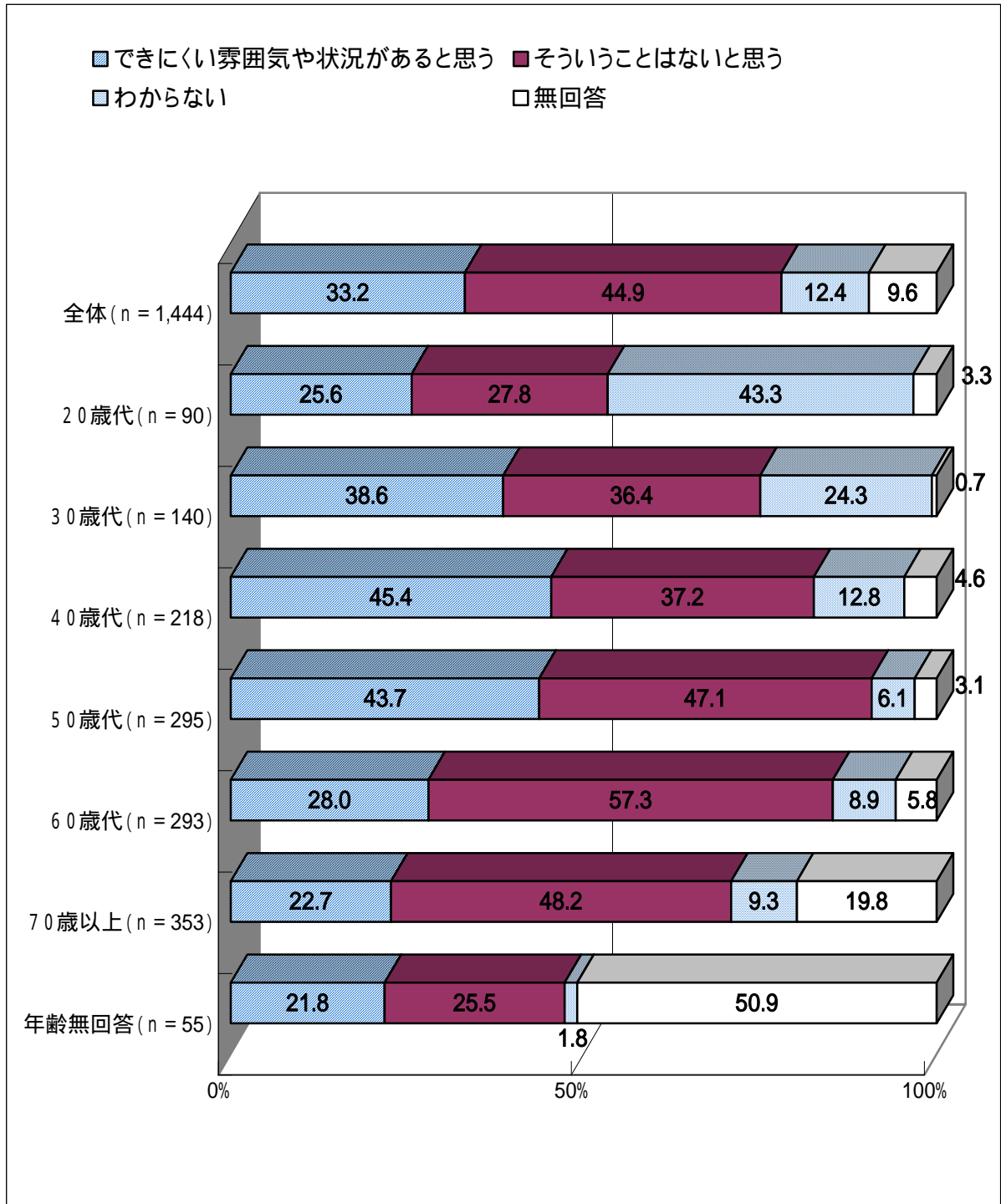


(県民意識調査との比較)



資料 平成16年県民意識調査

(市) 女性が活動しにくい状況に対する考え方(年齢別)



(2) 女性が活動しにくい状況の内容

問4 3 それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。(2つまで回答)

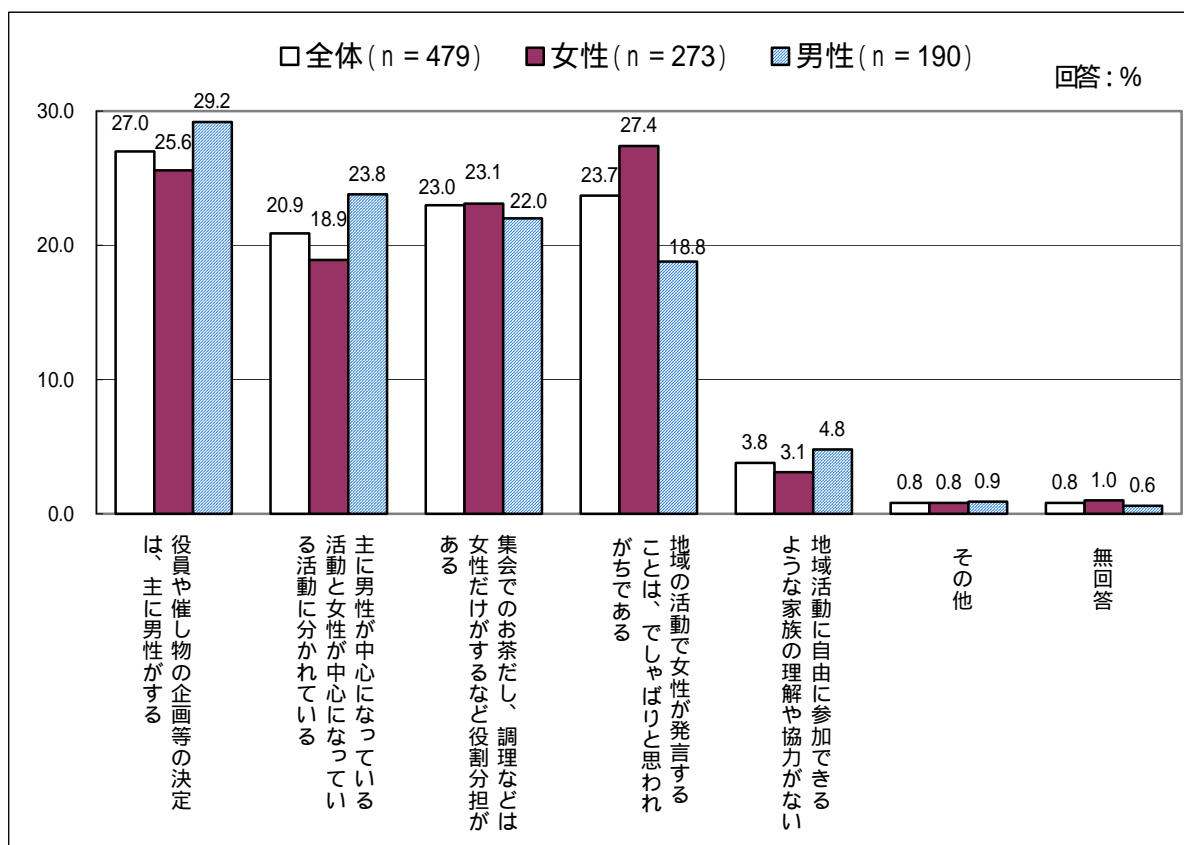
(問4 2で「1. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方のみ回答)

～ 役員や催し等の決定は主に男性が行い、

女性の発言はでしゃばりと思われがちな雰囲気がある ～

地域活動の場で女性が活動できにくい状況の内容を全体でみると、「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」との回答が最も多く(27.0%)、次いで「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」(23.7%)、「集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある」(23.0%)と続き、その割合は比較的近いものとなっている。

性別では、女性で「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」と回答した割合が27.4%で最も高いのに対し、男性では「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」が29.2%で高い割合を占めている。

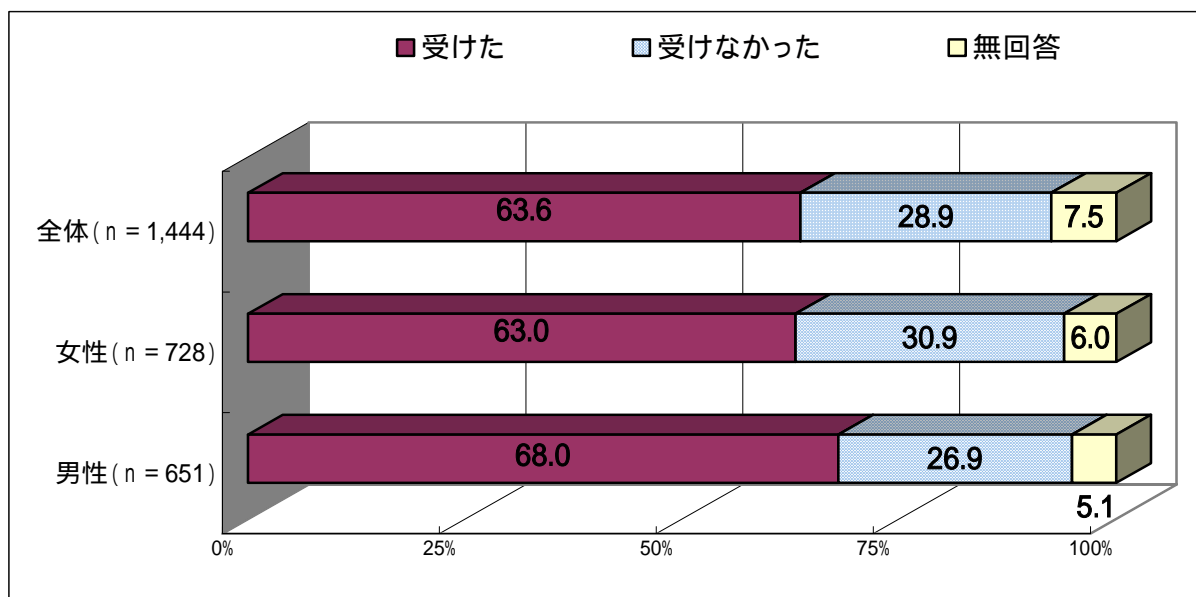


5. 健康について

(1) 健康診断の受診状況

問44 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。

健康診断については、いずれも6割以上が受診しているが、その割合は女性より男性が高くなっている。

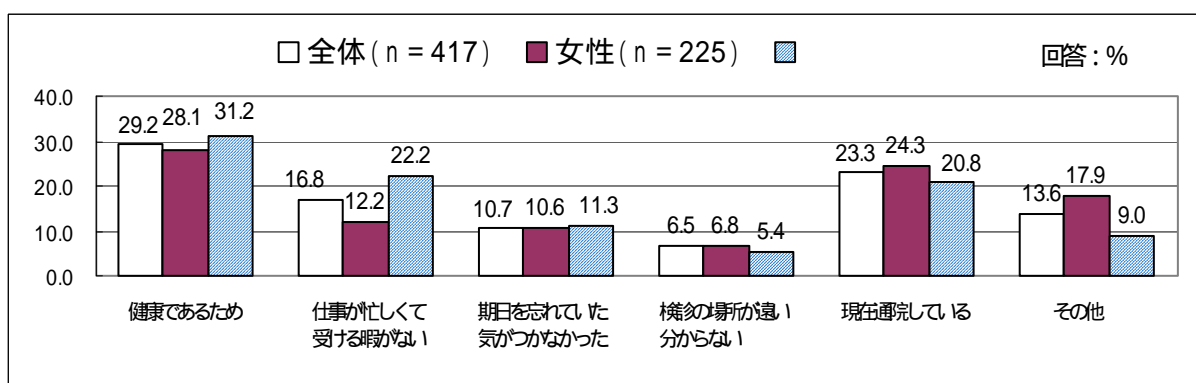


(2) 健康診断を受診しなかった状況

問45 健康診断や検診を受けなかったのはなぜですか。(複数回答)

(問44で「2.受けなかった」と答えた方のみ回答)

受診しない理由については、男女ともに「健康である」と回答した割合が最も高く(29.2%)、次いで「現在通院している」(23.3%)、「仕事が忙しくて受ける暇がない」(16.8%)の順になっている。また、「現在通院している」との回答は女性に多く、一方男性では「仕事が忙しくて受ける暇がない」が女性に比べ多くなっている。



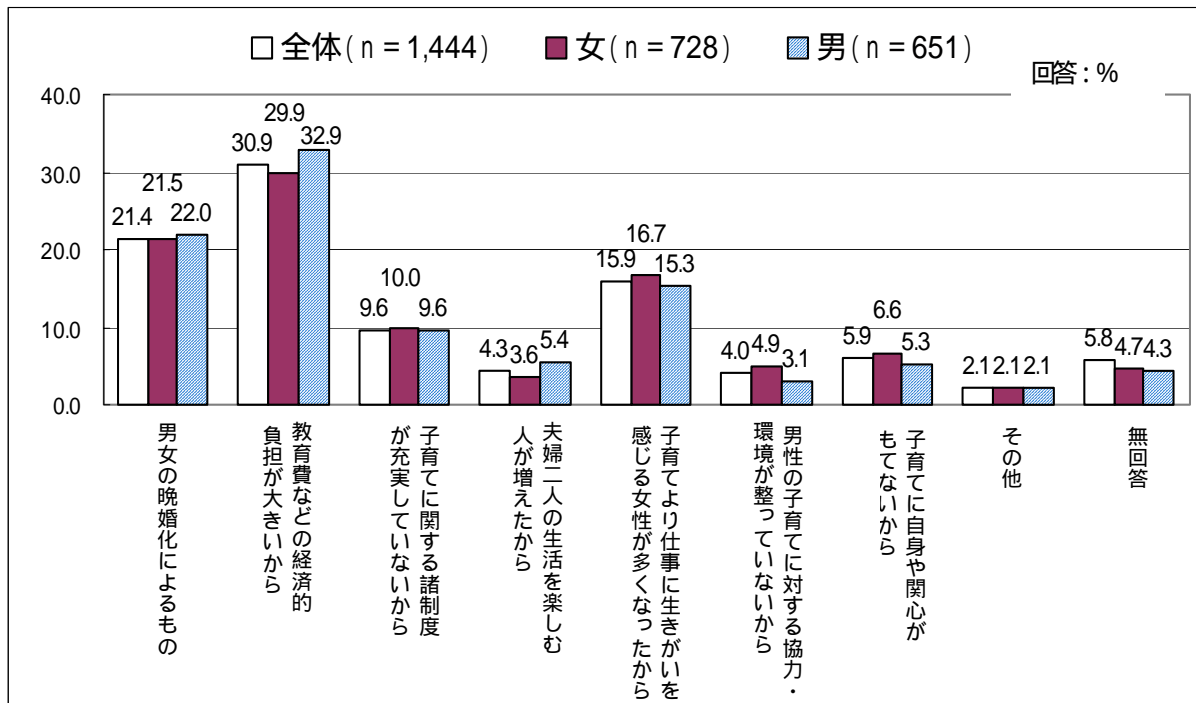
6. 少子化について

(1) 出生率低下についての意識

問46 出生率の低下がいらわれていますが、なぜだと思いますか。(2つまで回答)

～ 男女の3割が、「教育費などの経済的負担が大きいから」と回答 ～

出生率の低下については、いずれも「教育費などの経済的負担が大きいから」との回答が3割を占め最も高く、特に女性より男性にその思いが強い状況にある。また、「子育てより仕事に生きがいを感じる女性が多くなったから」との回答は女性に多くなっている。



7. 女性の人権について

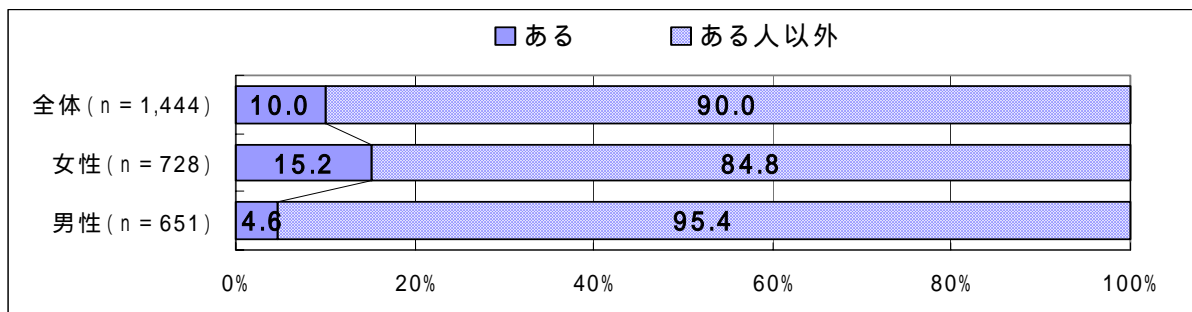
(1) 配偶者等からの暴力 暴力の実態

問47 あなたは、この1年間に、配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。(複数回答)

～ 被害体験者は女性に多い ～

配偶者や恋人等親しい関係にある人との間での暴力の実態をみると、全体の9割で「ない」と回答されている。一方、「されたことがある」と回答した被害体験者の男女の割合は、女性15.2%に対し男性4.6%となっており、女性が被害の対象となる割合が高くなっている。

これを性別・項目別にみると、「されたことがある」で最も多く回答されたのは、「大声でどなって威嚇する」、「交友関係やお金の使い道等細かく監視 制限する」が上位に挙げられ、いずれも女性が高い割合を占めている。一方、「したことがある」の割合はいずれも男性が高くなっており、その内容は「大声でどなって威嚇する」「家具や食器を投げたり壊したりする」「殴る、蹴る」の順になっている。



(回答：%)

項目	したことがある		されたことがある	
	女性	男性	女性	男性
a. 殴る、蹴る	0.1	1.8	3.4	0.6
b. 命の危険を伴う暴力	0.0	0.0	1.2	0.2
c. 大声でどなって威嚇する	2.2	10.9	11.3	1.5
d. 家具や食器などを投げたり壊したりしておどす	0.3	2.0	2.7	0.6
e. 交友関係や電話・外出・手紙のやりとり、お金の使い道を細かく監視・制限する	0.8	1.4	5.9	2.8
f. 生活費等の必要なお金をわたさない(とる)	0.0	0.6	3.3	0.5

相談の有無

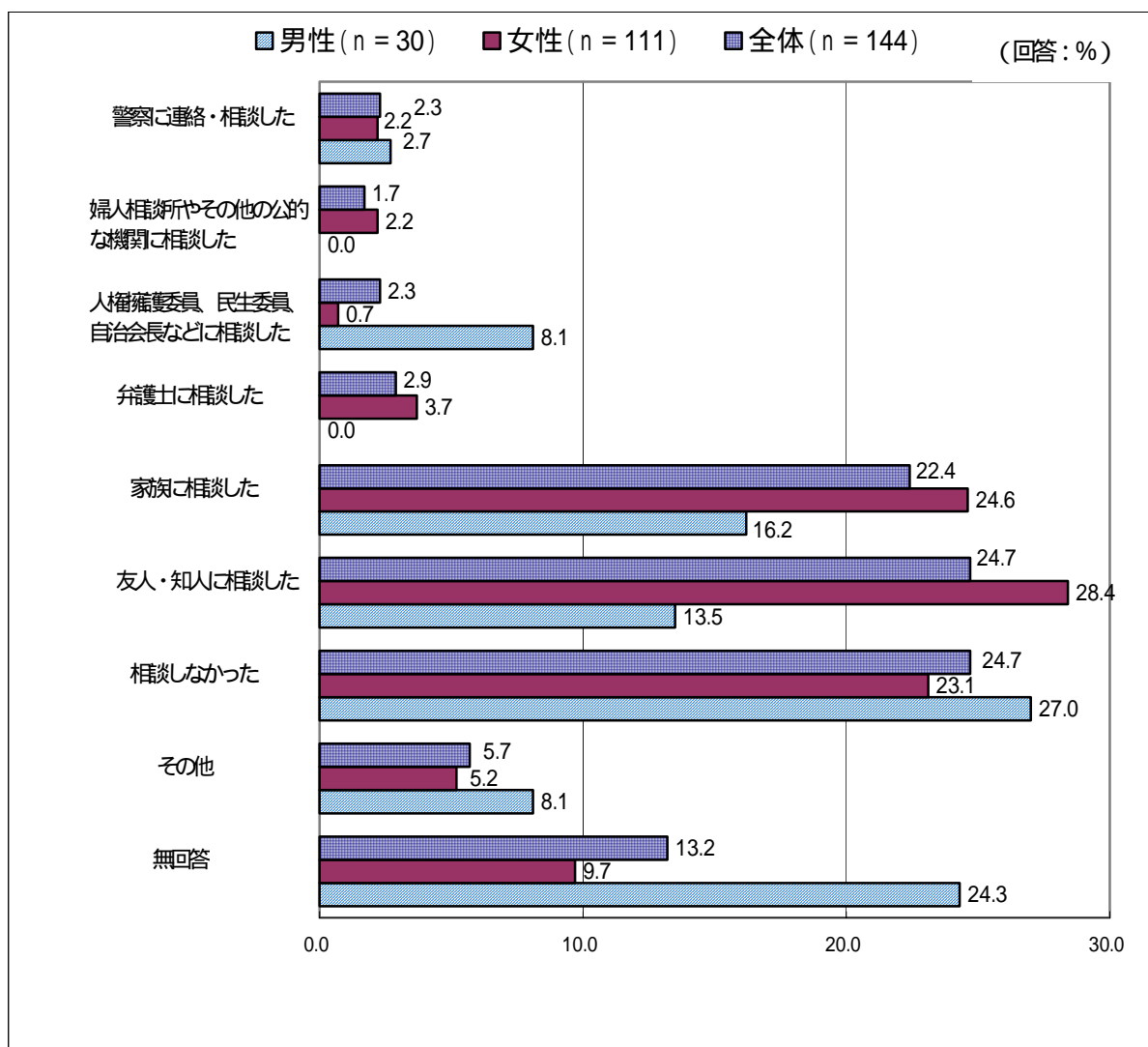
問48 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

(問47)で1つでも「されたことがある」と答え方のみ回答)

～ 女性は「友人・知人に相談」が多く、
男性は「相談しなかった」が最も多い ～

被害体験者の相談先を全体でみると、「友人・知人に相談した」と「相談しなかった」の回答が同率で最も多く、次いで「家族に相談した」となっている。

性別でみると、女性では「友人・知人に相談した」が多いのに対し、男性は「相談しなかった」との回答が多く、被害を受けた際の男女の対応は、大きく違う結果となっている。



相談した結果

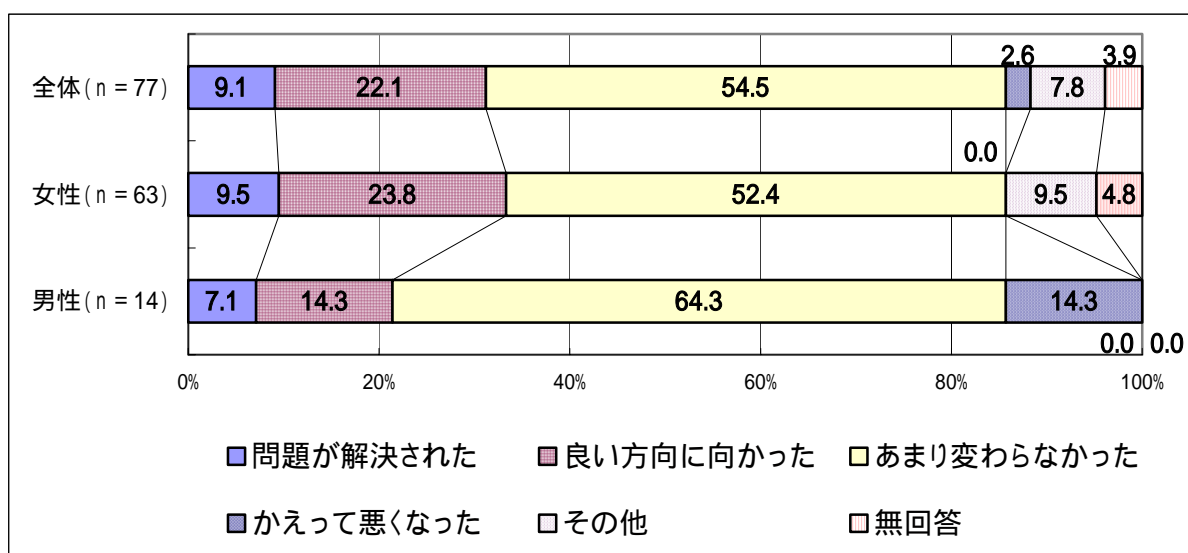
問49 相談した結果、状況はどうになりましたか。(単一回答)

(問48で「1~6.相談した」と答えた方のみ回答)

～ 過半数が「あまり状況は変わらなかった」と回答 ～

相談した結果の状況を全体で見ると、「あまり状況は変わらなかった」が54.5%で最も高く、次いで「良い方向に向かった」22.1%、「良い方向に向かった」9.1%と続いている。

性別では、いずれも「あまり状況は変わらなかった」との回答が最も多くなっているが、女性では「良い方向に向かった」の割合が高いのに対し男性では「かえって悪くなった」と回答した割合が高く、相反する結果となっている。



(2) 職場における性的嫌がらせ
嫌がらせの実態

問50 あなたは、この1年間に職場でセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）と思われる被害を受けたり、他の人の被害について聞いたことがありますか。（複数回答）

～ 被害体験者は女性に多くみられる ～

セクシャル・ハラスメントの被害状況では、男女とも「自分は被害を受けたことがないし、友人 知人で被害を受けた人を知らない」との回答が4割を超え最も多くなっている。また、少ない件数ではあるが「自分が直接被害を受けたことがある」との回答は女性に多い結果となっている。

(回答：%)

	自分が直接被害を受けたことがある	同じ職場で被害を受けた人がある	友人や知人で被害を受けた人を知っている	自分は被害を受けたことはないし、友人や知人で被害を受けた人も知らない	その他	無回答
全体 (n = 1,444)	2.3	1.9	4.6	42.4	0.8	48.0
女性 (n = 728)	3.9	2.4	5.5	40.4	0.7	47.1
男性 (n = 651)	0.6	1.2	3.4	47.5	0.9	46.4

「自分が直接被害を受けたことがある」と回答した人

(回答：件数)

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
全体 (n = 34)	5	9	5	8	4	3
女性 (n = 29)	5	7	5	7	3	2
男性 (n = 4)	0	2	0	1	1	0

相談の有無

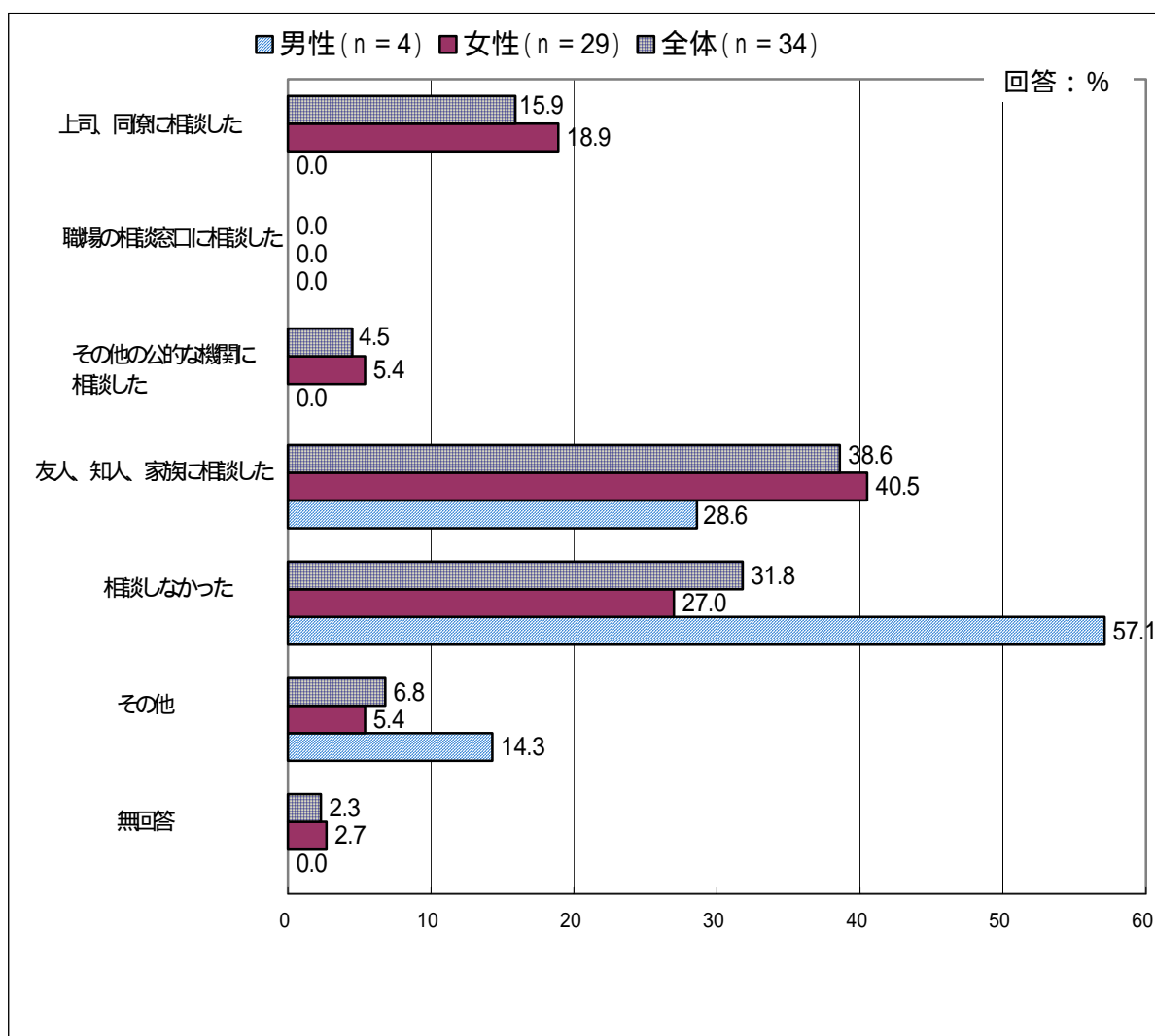
問5 1 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

(問5 0で「1.自分が直接被害を受けたことがある」とお答えの方のみ回答)

～ 「友人・知人・家族などに相談した」が約4割 ～

被害体験者の相談先を全体でみると、「友人・知人・家族に相談した」が38.6%で最も多く、次いで「相談しなかった」31.8%、「上司・同僚に相談した」と続いている。

これを性別にみると、女性では「友人・知人・家族に相談した」が最も多く、また、「上司・同僚に相談した」は女性だけの回答となっている。一方、男性の多くは「相談しなかった」と回答されており、友人・知人・家族等の比較的身近な人以外には相談しない傾向がうかがえる。



相談した結果

問5 2 相談した結果、状況はどうになりましたか。(単一回答)

(問5 1で「1~4.相談した」と答えた方のみ回答)

～ 「良い方向に向かった」がやや多い ～

相談した結果の状況をみると、「良い方向に向かった」、「あまり状況は変わらなかった」に続き「問題が解決された」の順に回答されている。

(回答：件数)

	問題が 解決された	良い方向に 向かった	あまり変わらなかった	かえって 悪くなった	その他
全体(n = 23)	4	8	6	3	1
女性(n = 21)	4	7	6	3	0
男性(n = 2)	0	1	0	0	1

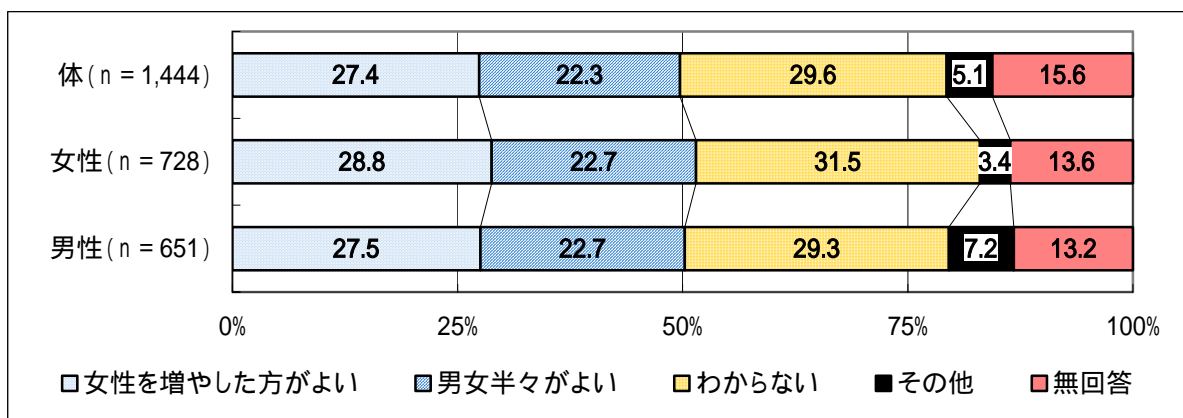
8. 政策決定の場への女性の参画について

(1) 女性の審議会等への登用状況

問5 3 まだ女性委員が少ない状況ですが、あなたはごどう思いますか。(単一回答)

～ 男女の半数が「女性を増やした方がよい」又は「男女半々がよい」の回答 ～

審議会等委員の女性登用については、いずれも「わからない」との回答が多く(29.6%)、続いて「女性を増やした方がよい」(27.4%)、「男女半々がよい」(22.3%)の順になっている。その中でも「女性を増やした方がよい」の割合は、女性28.8%に対し男性27.5%と女性がやや高くなっており、女性委員の登用促進を望む声は女性に強くなっている。



(2) 女性委員が少ない理由

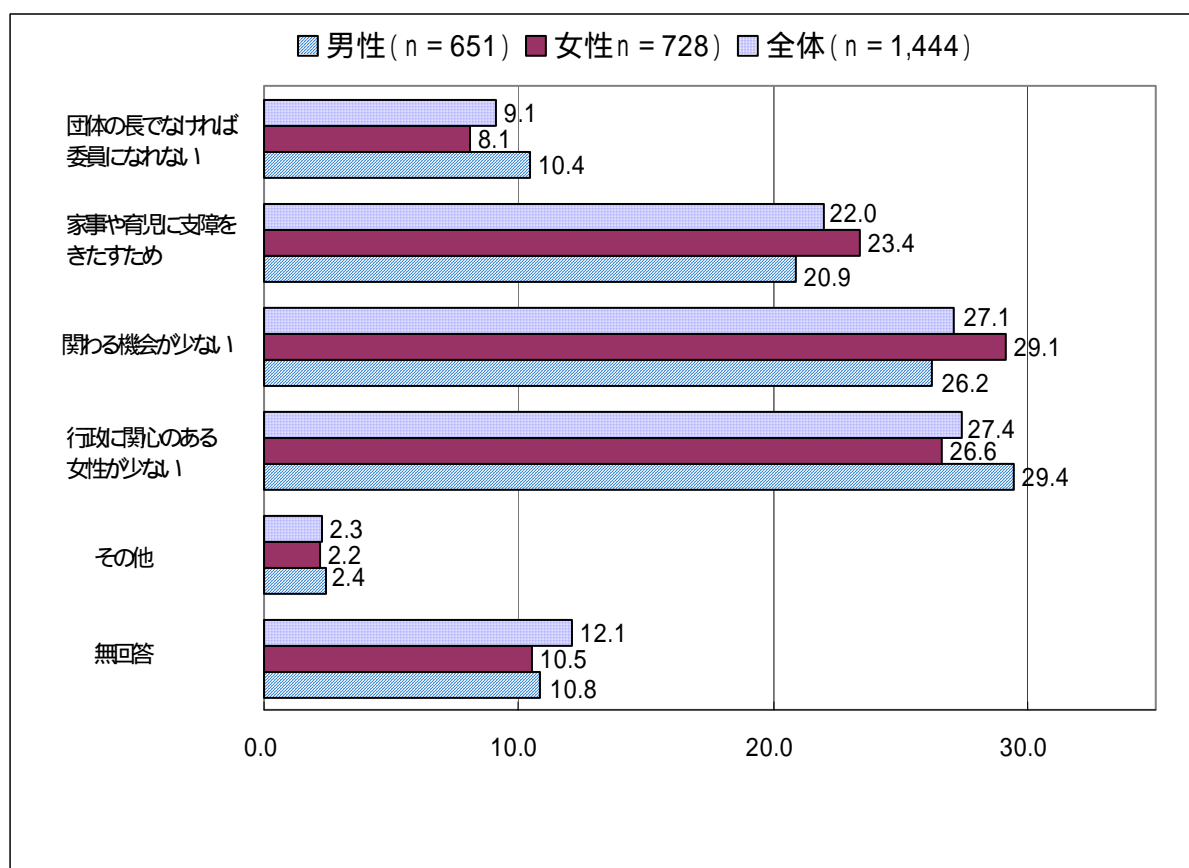
問5 4 審議会等の女性委員が少ない理由はなぜだと思いますか。(2つまで回答)

～女性は「関わる機会が少ない」と考え、

男性は「行政に関心のある女性が少ない」と考えている～

女性委員の少ない理由を全体でみると、「行政に関心のある女性が少ない」が最も多く(27.4%)、次いで「関わる機会が少ない」(27.1%)、「家事や育児に支障をきたすため」(22.0%)、「団体の長でなければ委員になれない」(9.1%)の順になっている。

性別にみると、女性では「関わる機会が少ない」との回答が多いのに対し男性は「行政に関心のある女性がすくない」が最も多くなっており、男女間で意識の違いがあることがわかる。又、「家事や育児に支障をきたすため」と考えている女性は男性が考える以上に多いことがうかがえる



9. 男女共同参画への要望

(1) 男女共同参画社会実現に必要な取り組み

問55 男女共同参画社会の実現のため、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(3つまで回答)

～ 働きやすい就労環境や家庭・地域で

活動しやすい環境の整備を望む声が多い ～

男女共同参画社会の実現のために必要な取り組みを全体でみると、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」が18.2%で最も高く、次いで「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」13.6%、「子育て介護などと仕事の両立のための支援」12.7%、「女性の能力向上のための学習・研修の充実(女性リーダーの育成)」10.4%、「子どもの頃からの男女平等教育の推進」10.1%などが上位に挙げられている。

これを性別にみると、女性では「子育て 介護などと仕事の両立のための支援」が必要とする回答が男性より多く、一方、男性では「子どもの頃からの男女平等教育の推進」との声が女性に比べ多くなっている。

(回答：%)

	女性の能力向上のための学習・研修の充実(女性リーダーの育成)	企業や行政機関などの役職や管理職、各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	各審議会委員などに女性の登用を促進	無回答
全体(n=1,444)	10.4	8.1	4.0	10.1	18.2	4.2	13.6	12.7	7.6	1.9	1.8	0.4	7.0	
女性(n=728)	10.4	6.9	4.1	9.3	18.5	4.5	13.6	14.1	8.1	2.1	1.9	0.2	6.3	
男性(n=651)	10.5	9.6	4.0	11.5	18.1	4.0	13.7	11.5	7.3	1.7	1.6	0.5	6.0	

(2) 男女共同参画社会実現に対する意見

問56 男性と女性が、職場・学校・地域・家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、ご意見・ご要望がありましたら具体的にご記入ください。(自由意見：243件)

(学習の機会について)

(12件)

内容	件数
「男女共同参画」について、家庭・職場・地域で学習する機会が必要である。	6
大人の意識を変える学習会などの機会を増やすべきである。	1
男女共同参画を全て同一と捉える考え方があるが、性による特性、個性、能力を理解する研修が必要である。	1
若い女性達が元気になれるような講演会、学習会を開催してほしい。	1
人権教育を生涯学習として若若男女すべてが続けていけるような機会、場を提供してほしい。	1
男女がともに平等という認識をさせる学習・研修の充実が大切である。	1
夫婦のあり方などを勉強する機会(二人で)が必要である。	1

(人材育成について)

(13件)

内容	件数
職場、学校、地域等で男女を問わず、若者を育てる意味から長なる者は抜擢し、援助しながら個性を育て尊重して有能な人材をつくる必要がある。	1
女性が社会に進出し活躍していくためには、どんな時でも女性にも意見、考え等を発言できる機会を与える事が必要だ。	4
やる気のある人は積極的に登用すべきと思う。ある程度強制的に管理職、採用人数など決めないと進まない気がする。	1
審議会等の女性が少ないといって、女性のための施策ではなく、全体の能力向上の中で、その結果、男女の比率は関係ない。女性市長、首相も問題なく、ただ能力の問題。但し、チャンスが平等でなければ問題である。	1
女性リーダーの育成が大切である。	3
男女を問わず、かくれた能力の発掘が必要ではないか。女性も研修を積んで、男性と同等の意見が言えるようになれば、自然に共同参画も出来ると思う。	1
男性と女性の特徴を意識した人材登用ができれば良いと思う。	1
もっと女性がいろいろな事に対して知識を深めることが大切だ。	1

(教育について)

(25件)

内容	件数
「男女共同参画社会」を実現するには、まず、家庭・幼稚園・学校・社会での意識づけが重要だ。	2
子どもの頃からの性別にこだわらない躰、男性でも女性でも一人で生きていける必要最低限の料理・片付け等ができるようにしておくことが大切だ。	2
永年培って固められた考えや思想は変えにくい。やはり幼児期から道徳、人権の教育を推進し、男女共同参画の重要性を認識させることが必要である。	3
家庭や地域で、男女が共に活動しやすい環境づくりや子どもの時からの平等教育が必要だと思う。	1
学校(教育現場)の中でも男性の方が優遇されていると感じる。「草の根」的な地道な改革をしていくしかないと思う。	1
固定的な分担意識の解消には小さい時からの教育が重要だと思う。また、職場でも性別に関わらず、同じステップを踏めるような教育プログラムが大切と思う。	1
子どもの頃からの生活環境が大きく影響すると思う。	3
子どもの頃からの平等教育は大切であると同時に、男性と女性では体力や体のメカニズムが異なることを理解し、その違いが女性のハンディにならない、ハンディだと思わない事が平等だと教育する必要がある。	1
子どもの頃からの教育と大人の再教育が大切である。	3
女性と男性の互いの特性を踏まえた人間の平等教育が必要である。	2
先ず家庭内での子どもの教育。	2
日本人の頭の中には、男のする事、女のする事というような潜在意識があるので、この意識を変えていく教育が必要である。	1
子どもの頃から男女平等の学習をしっかり身につけさせる必要がある。	1
男女平等について誤解が多い。男女の特性をお互いに理解すべきである。学校や家庭で小学生までは男女同じような指導でよいが、中学生からは指導内容が違って来る。差別ではない。その違いを理解させること。	1
男女平等というが、男と女は体も違い、すべて平等とはいえないと思う。家庭では男は男らしく女は女らしくという事を教えてほしい。	1

(意識改革について)

(41件)

内容	件数
女性の中にも男性より一歩控えなければならない考えを持った人がいる。女性がもっと自信をもって参加すること。意識改革が必要。	4
一番大切なのは女性の能力を認めるという意識を持つこと。	1
男性女性共に自らの意識を変えること。	11
企業や団体のトップの人達(男性)の差別意識を無くす必要がある。女性を理由とする対応や責任の軽さを逆にとり、男性に面倒を押し付ける働き方をする女性にも問題がある。両方が意識を変えなければならない。	1
女性の考え方がせまく、家庭から抜け出していない。社会全般的を幅広く考える人になって欲しい。	1
社会に甘えず、女性もどんどん勉強して行かねばと思う。	1
社会でも、家庭でも、常に勤勉でなければならない。	1
女のくせに、女性だから・・・という意識を変える必要がある。	3
女性は、「女性だから出来ない」と断ることが多い。何事にも積極的に参加して欲しい。	7
一般的に年配の男性は、女性に固定観念で対応する傾向がある。	1
性別役割分業の考えの人が多いため、女性が外で能力を發揮できない。	2
男らしさ、女らしさを真剣に考える時が来ている。	1
男女共同参画には、一人一人が積極的に前向きにアクションし、参画しようとする気持ちがあればできる。	1
男性女性という括りより、役職についている人に対して講習するなど、リーダーとなる人々の意識改革が第一と思う。	1
女性は、女性全体の向上のため目的意識を持ち、「今自分は何をすべきか、どうしたらよいか」考えて行動すべきと思う。	1
男女共同参画社会という言葉の意味が自分の中でまだ曖昧な状態である。この言葉の意義についての理解にもう少し時間が必要だと思っている。	1
女性も男女共同参画社会実現のため、社会参加をし勉強し意識の向上に努めて行かねばならないと思う。	1
古い考え方が残っている地域もあり、意識の啓発をする必要があると思う。	2

(相互理解について)

(34件)

内容	件数
お互いが足の引っ張り合いをしないように多様な価値観をもって大きく助け合う事が大事だ。	1
お互いに相手を尊重し、認め合い、協力すること。	15
権利ばかり平等にしようとする今の男女参画には反対である。互いに認め合い、思いやる気持ちに立って、能力のある女性がうもれないように、男女にかかわらず意見を言え、素直に耳を傾けられる関係づくりに努めていかなければならない。	1
農業等においては、性別によりできる仕事できない仕事があるが、世の中、男と女しかいないので、お互いに力を合わせてより良い社会づくり、地域づくり、健全なる子育て等が必要である。	1
これからは女性もどんどん社会に出て、夫も家事ができるように夫婦で話し合う事も女性のこれからの役目である。	1
女性も個性や能力を発揮できる社会は望ましいと思う反面、家族を支える役割分担が明確化されていないと家庭が崩壊し、子育て等にも悪影響を起こしかねないのでは。	1
職場では女性の持っている力を見つけ出し、男女差別なくす。家庭では、共稼ぎが多くなったので、家族でよく話し合い、男性も子供も助け合い楽しく暮らせる事が理想。	1
お互いに話し合いをもって、出来ることから少しずつ進めて行かなければいけないと思う。	4
男女がお互いの特性を認識した上で、男らしさ女らしさを否定することなく、お互いを認め合うことが大切。	7
男女が一緒に話し合いを持つと意見が出しにくく、批判を受ける等の障害があるので、各リーダーがまとめ役となり、能力・個性に合わせた協力が必要である。	1
性別にこだわらず、個人として見ていけばよいと思う。また、人が皆平等であるという自覚や思いやり、人に対して何が大切であるかを個人も企業も社会ももっと意識していけばよい。	1

(家庭について)

(11件)

内容	件数
介護の問題など、男女共同参画は現実的に難しい。	1
まず女性を参加させるには、家庭から出やすくしないと始まらない。	1
家族の理解が必要である。	3
夫婦で話し合い、家事や介護を協力して行っている。	2
女性が働きやすくするため、男性も家事に参加すること。	2
男性が女性の家庭での仕事を認めること。	1
無理にしなくて良い。個々の家庭の問題である。	1

(結婚・出産・育児について)

(11件)

内容	件数
出産、育児に女性が休暇を費やす時間、賃金等を補償する制度、条例等が有れば前進する可能性がある。	1
共働きでも子育てが十分できる社会環境を作っていくべきだ。	1
女性が仕事を続けようとするれば、将来結婚、出産、育児の壁にぶつかる。少子化も、晩婚化も、女性が結婚して仕事を続けられないことが原因ではないか。	1
女性が出産・育児という使命がある以上、男女共同参画は無理だと思う。地域で子育てをする等の環境を整えば少しは変わるのでは。	1
女性が様々な活動、教育セミナーに参加できない理由に子育てがあると思う。子連れでも参加できる環境が整っていれば、いろいろな企画に参加できると思う。	1
女性は結婚した後、出産・育児を避けて通ることができない。職場、行政、地域等で、男性の意識改革と助けが必要である。	1
女性には出産という仕事がある。このことで、職場の人が負担を感じることがない仕組みになればよい。	2
女性の社会進出が以前に比べると多くなったが、子育ても社会参加だと認める必要がある。	1
男女が共に助け合い理解し合う環境づくりと並行して、子育て支援等の整備もしなければ少子化が益々進んでしまうと思う。職場で能力を発揮することも大事だが、子供を産むことは女性しか出来ないことである。	1
男と女の違いがある以上、平等はありえないと思う。女性にしかできない事から男女共同参画を行っていくべきだと思う。育児に関しては、女性(母)が男性(父)のかわりにはできても男性は女性(母)のかわりにはできないので、育児は女性のみ共同参画社会の一部分と思う。	1

(地域について)

(5件)

内容	件数
この地域は高齢化が進んでいるため、女性が積極的に地域にかかわることがない。	1
男女に関わらず、意識さえあれば色々な活動に参加できると思う。女性だから意見が通らないと感じたことは特にないが、そう感じている人の意見をうまく受け入れる場も必要である。	1
地域において、決め事をする際に男性の出席を促す連絡が入るが、おかしいと思う。	1
もう少し女性がきちんと意見を言えるように、女性自身もしっかりと地域に関わっていかなければならないと思う。	1
女性の意見を重要視し、女性も地域のリーダーとして積極的に活動してほしい。地域の集会などにも進んで出席するようにしてほしい。	1

(労働環境について)

(25件)

内容	件数
育児休暇について保障が十分でないため、金銭的な理由で取れない。また、男性には休暇をとりにくい空気がある。	2
女性の方が能力の高い人が多いが、結婚その他の理由で長く勤める気がないように思われる。育児はやむをえないが会社は困る。	1
会社(個々)の制度を見直せばよいのではないか。	1
男女の所得格差がなくなる事が大切である。	6
女性が個性と能力を発揮できる職場環境をつくるには、男女の地位を平等にし、職場に託児所を作る等の環境整備が必要である。	1
女性が男性と平等の仕事(男性からみて平等と思われること)が出来て、責任を負えばよいが、現実には厳しいと思う。現に3Kは男性が中心である。	1
女性でも男性でも育児・介護休暇を取りやすい職場環境づくりが必要。	1
女性の意見(やりたい仕事、職種)を十分聞いて、働きやすい職場をつくる必要がある。	4
職場内での託児所を造ればもっと女性が働いていけると思う。	1
人間は男女半々で構成されているから、リーダーも半々。職場もそういった目標を持つ。そしてその阻害要因を改善。	1
男女がともに働きやすい環境づくりが必要。労働条件の改善が必要。	3
育児時間を社会が理解する。休みが多いからといって直ぐ首にしない。	1
男女雇用機会均等法が浸透するには、まだ50年掛かる。本当に日本人に合っているか疑問。この問題を解決するには、日本人の生活習慣から変えて行かなければならないが、それが出来るのだろうか。	1
私の仕事場では大いに発揮できているのでよく分からないが、仕事場では上司のやり方だと思う。又自分が能力を発揮したい人は、大いにアピールすればよいと思う。反対に私には共同参画が重荷になる。そういう人もいる。	1

(社会制度に対して)

(11件)

内容	件数
社会制度として子育て、老人介護等の問題を定着させることが男女共同参画社会への近道である。	1
女性が働かなくても生活できるように男性の給料が高くなればよいが、共働きをすれば保育料が高くなる。矛盾ばかりである。	1
女性が外で働く共働きであっても、女性に家事・育児が偏っていると思う。だから社会で男性と平等に活躍したいと思う女性は、結婚しないで家庭に縛られずに自由に働ける立場を望むのかもしれない。大変難しい問題だ！	1
子育てが負担とならない余裕のある労働形態(システム)を構築することが必要ではないか。勤務時間より家庭の時間が優先するような社会的合意をつくっていくこと。	1
社会全体が男女共同参画を認めること。	1
社会全般の意識、慣習の改革、労働条件の改善、賃金の男女平等。	1
生活にお金がかかりすぎるために、夫婦共働きをしなければならない状態になっている。女性が働きたいのは、家庭でのストレスをリフレッシュしたり、一人の人間として見てもらえる場を作りたい等も理由の一つだと思う。社会がもう少し緩やかに流れてくれると、あまり問題は深くないのでは。	1
男社会は根強く残っている。	1
女性が仕事を頑張っても結婚、出産によりどうしても子供に手がかかり、辞める。女性が仕事をするのがベストのような考えがみられるが、そのみが女性の社会進出や平等ということではなく、家庭で子育てに頑張っている女性を社会が認めていかなければ、男女平等はありえない。	1
男女共同参画社会の実現には、仕事の選択はできないし、どんなに理想を掲げても男女間の力量は違うのだから、男女ともお互いを良く理解した上で社会をつくるべき。	1
男性や地域での意識改革、女性の能力向上、女性の起業活動支援が必要。	1

(個性・能力・評価について)

(31件)

内容	件数
それぞれの個性と能力を発揮できる様、機会と場所を多く設ける。	1
それぞれ個人の個性・能力を認め(評価)、協力していく。	11
お互いの個性や能力を出し合っていくことが大事だ。	6
企業のトップの意識を変え、出来る人間、努力した人間が評価される環境にすべきである。	1
女性でなければならないこと、考えられないことなどの論点を教育、行政に活かすことにより女性への尊敬、存在、意識を持って、皆が行動することになる。	1
女性の場合、自分の能力が十分発揮できない。まわりの理解があれば本人も気付かない可能性を見出して、もっと技術も向上するのではないか。もっと女性の企業家が出てがんばって欲しいと思う。	1
それぞれに優れた気質というものがあるので、何が何でも平等にする必要はないと思う。	3
職場の男性が女性に対して、理解を示す。特に会社等においては女性でも能力のある者を積極的に昇進させるべきと思う。	1
男性、女性を意識しすぎるのではなく、一人一人を大切にすることを。	1
性別にとらわれず、個性や能力が伸び伸びと発揮できる人間理解を進めるため、互いに啓発活動に取り組むことが大切である。	1
性別によって向き、不向きの仕事(適材適所)もあると思うので、全てを平等にする必要はない。女性は出産育児のために仕事を制限されることで、男性と同じように働こうと思えば、かなりの犠牲と努力がいると思う。	1
男性は女性が能力があるとしても、女性は女性だからとしか見ていない。	1
本当に能力のある人が長になるのならいいけど、勤務が長いだけで長になる事は反対。	1
男女平等教育など男と女が平等になろうとすることは、体のつくりからして無理な事だと思う。なぜ「男女共同参画社会」にこだわるのかが分からない。個性と能力を発揮する、しないは個人の問題ではないか。	1

(社会参加について)

(7件)

内容	件数
家事、育児をしながら働く女性達は、社会参加(仕事への)に取り組む意識、意欲が強くて家事、育児に費やす時間が多い為、参加に時間的余裕が持てないのが現状である。	1
女性がいろいろなところで活躍できる環境づくりが必要である。	2
昔から男性女性の役割が根強く残っている感があるので、女性がなかなか社会に出ていけない事などがあると思う。	1
男だから女だからなどではなく、人間として思いやりを持って女性を参加させたらよいと思う。	1
女性自身に何か頼りないところがある。肉体的、社会的に仕事を優先できない状況がある	1
私は女性がますます活躍することを望んでいるし、男性に支えられている時代ではないと思う。今は男性と女性が反対になって頼れない時代。	1

(行政に対して)

(19件)

内容	件数
「男女共同参画社会」についての実態を情報提供する必要がある。	1
男女が互いの事を尊重できるような社会づくりに取り組んでほしい。	2
性別によりできること、できないことがあるので、お互いに補えるような社会支援が必要である。	1
各会合を主催する側が、男女に関係なく出席できるようにしてほしい。	1
行政が先行して女性の登用、発言の場を設ける等、率先して行うことの波及効果は大きい。	1
男女共同参画を少しずつでも浸透していける様な活動が必要である。	1
子どもを産んでも働きやすい環境、また勉強したい人を応援してほしい。	1
子どもがある程度成長したら、安心して預けられる施設を設けてほしい。	1
市内の事業所に「産休・育休制度」を義務付ける等の支援をしてほしい。	1
女性が職業を持つことは大変であり、子育て支援をもっとやるべきである。(地域で子育ての終わった人に面倒を見てもらう制度等)	2
アンケート調査結果を市報等で知らせてほしい。	2
男性が休みを取りにくい職場が多いので、行政が指導してもよいのではないか。	1
女性が外で活動できるようにするため、職場等への啓発活動を行う。	1
男女共同参画社会に対する意識改革を早急にする。これは時代の要請であり、また国の重要政策であり、しっかりと市民全体に理解してもらうことが大切。	1
児童手当の充実(高校卒業まで)教育費の無料(高校卒業まで)を望む。	1
社会の偏見をなくし、男性と女性の特性を活かした男女共同参画社会を目指してほしい。特に出産は女性にしかできない重要なことであり、それを助ける制度が必要である。	1

. アンケート調査票

あなたご自身についておたずねします。

問 1 ~ 問 6 について当てはまる番号を 1 つずつ選んで 印をつけてください。

問 1 あなたの性別は、次のうちどちらですか。

1. 男 2. 女

以下の問 2 ~ 問 6 に関しては平成 17 年 12 月 1 日現在で記入してください。

問 2 あなたの年齢は、次のうちどれですか。

1. 20 ~ 29 歳 2. 30 ~ 39 歳 3. 40 ~ 49 歳
4. 50 ~ 59 歳 5. 60 ~ 69 歳 6. 70 歳以上

問 3 あなたの職業は、次のうちどれですか。

1. 農林漁業自営 2. 自営業 (商工業・サービス業・建設業・開業医等)
3. 会社員・公務員 4. 学生 5. 専業主婦
6. アルバイト・パート 7. 無職
8. その他 (具体的に)

問 4 あなたのお宅の家族構成は、次のうちどれですか。

1. 単身世帯 2. 夫婦のみ
3. 二世帯世帯 (親と子供、親と子供夫婦)
4. 三世帯世帯 (親と子供と孫) 5. その他 (具体的に)

問 5 あなたが住んでいる地域は、次のどれですか。

1. 咸宜 2. 桂林 3. 若宮 4. 日隈 5. 光岡
6. 三芳 7. 高瀬 8. 五和 9. 朝日 10. 三花
11. 西有田 12. 東有田 13. 小野 14. 大鶴
15. 夜明 16. 前津江 17. 中津江 18. 上津江
19. 大山 20. 天瀬

問 6 あなたは日田市にお住まいになって、何年になりますか。(旧日田郡の方は旧日田郡からの通算でご回答ください。)

1. 2 年未満 2. 2 ~ 5 年未満 3. 5 年 ~ 10 年未満
4. 10 ~ 20 年未満 5. 20 年以上

男女共同参画意識調査

本市では、男女が共に性にとらわれず主体性を持って、あらゆる分野に参画できる社会を実現するため、平成13年3月に日田市男女共同参画基本計画（10年計画）を策定しました。

今年度がその中間期にあたることから市民意識調査を実施し、平成18年度以降の第二次行動計画を策定する予定です。

この意識調査は、家庭生活・職場・社会活動などの様々な場面における意識や実態についてお聞きします。最後までご協力をお願い致します。

以下の質問について不明な点等がありましたら、下記までお問い合わせください。

日田市役所 企画文化部 企画課 男女共同参画推進・統計係
電話 23 - 3111（代表） 内線624・625
22 - 8227（直通）

男女の意識についておたずねします。

問30 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び 印をつけてください。

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 同感する | 2. 同感しない |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |

男女共同参画社会

男女が互いに人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できる豊かな社会のことです。

問3 1 あなたは、次の分野において男女平等がどの程度、実現されていると思いますか。
a～hのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び印をつけてください。

項 目	男性が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
a．家庭生活で	1	2	3	4	5	6
b．職 場 で	1	2	3	4	5	6
c．地 域 で	1	2	3	4	5	6
d．学校教育で	1	2	3	4	5	6
e．政治の場で	1	2	3	4	5	6
f．法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
g．しきたりや社会通念で	1	2	3	4	5	6
h．社会全体で	1	2	3	4	5	6

「男女共同参画週間」

平成11年6月23日施行の「男女共同参画社会基本法」に対する理解を深めるため、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、全国で様々な啓発活動が行われています。

家庭生活についておたずねします。

問3 2 結婚している方（事実婚を含む）におたずねします。

あなたの家庭では、次の役割分担を主に誰がしていますか。あなたのご家庭にあてはまる番号を【回答欄(1):現状】から、あなたが理想とお考えの番号を【回答欄(2):理想】から、それぞれ1つずつ選び印をつけてください。(a)～(i)のうち、あてはまらない項目については、記入する必要はありません。

項 目	【回答欄(1):現状】						【回答欄(2):理想】					
	主に夫	主に妻	夫婦で共同	主に父	主に母	他の家族	主に夫	主に妻	夫婦で共同	主に父	主に母	他の家族
a. 家計の管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
b. 食料品などの買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
c. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
d. 食後の片付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
e. 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
f. 育児・子どものしつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
g. PTAへの出席	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
h. 町内行事等への参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
i. 高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

- ・ 1 は、回答者ご自身のことを示します。
- ・ 2 は、回答者のご両親あるいは義理のご両親を示します。

問33 男性が女性とともに家事、育児、介護等に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを2つまで選び 印をつけてください。

1. 男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
3. 職場における、労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり
4. 男性対象の講習会（料理・育児・介護など）の開催
5. 子どもの時からの家庭教育
6. 学校における男女平等教育
7. その他（具体的に _____)

仕事についておたずねします。

問34 あなたと仕事(農林業・サービス業等、自営業を含む)の関係は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. 卒業して以来、継続して働いている
2. 卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている
3. 卒業して働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている
4. 卒業して以来、主婦・主夫をしている
5. 卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため仕事をやめた
6. 卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた
7. 定年退職により現在働いていない
8. これまで働いたことはない（学生を含む）
9. その他（具体的に _____)

問35 「問34」で4～9とお答えになった方におたずねします。

(回答後、問38にお進みください。)

あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。この問の仕事とは、家事以外の仕事への従事についておたずねします。

1. すぐ働きたい
2. 将来働きたい
3. いまのままでよい
4. わからない
5. その他（具体的に _____)

問36 「問34」で1～3とお答えになった方におたずねします。
あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると
思いますか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. 差別されていると思う
2. そのようなことはないと思う
3. わからない

問37 「問36」で1とお答えになった方におたずねします。
それは具体的にどのようなことですか。あてはまるものを2つまで選び 印をつけて
ください。

1. 賃金に格差がある
2. 昇進・昇格に差別がある
3. 能力を正當に評価しない
4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
5. 女性を幹部職員に登用しない
6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他(具体的に)

問38 あなたは、「女性が職業を持つ」ことについて、どのようにお考えですか。あなた
のお考えに最も近いものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい
2. 結婚するまで職業を持ち、後は持たない方がよい
3. 子どもができるまで職業を持ち、後は持たない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業
を持つ方がよい
5. 職業を持たない方がよい
6. その他(具体的に)

問 3 9 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを3つまで選び 印をつけてください。

- 1 . 就職情報の提供・充実
- 2 . 再就職のための技能研修などの充実
- 3 . 子育て後などの再就職・再雇用制度の充実
- 4 . 女性が働くことを妨げている社会全般の意識・慣習の改革
- 5 . 労働条件の改善（昇進・昇格など待遇格差解消など）
- 6 . 企業などにおける育児・介護休業制度などの充実
- 7 . 多様な雇用形態（在宅勤務、時間短縮労働など）
- 8 . 家族の協力
- 9 . 保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実
- 10 . その他（具体的に)

問 4 0 結婚している方で、農林業・サービス業等の自営業に従事されている方におたずねします。事業経営の方針や取り決め等、誰が決定されていますか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

- | | | |
|---------|---------|-------------|
| 1 . 主に夫 | 2 . 主に妻 | 3 . 夫婦で話し合い |
| 4 . 主に父 | 5 . 主に母 | 6 . その他 |

- 1・2は、回答者ご自身のことを示します。
4・5は、回答者のご両親あるいは義理のご両親を示します。

問 4 1 家族で農林業・サービス業等の自営業に従事されている方におたずねします。家族の自営業従事に対して、金銭的な評価（給料支払い）をすべきだと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

- 1 . 労働の対価として、金銭的評価をすべきである
又は既に払っている
- 2 . 家族だから労働の対価は不要
- 3 . 自営業以外の収入があるから不要
- 4 . わからない
- 5 . その他（具体的に)

地域活動についておたずねします。

問42 自治会等地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況があると思いますか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. できにくい雰囲気や状況があると思う
2. そういうことはないと思う
3. わからない

問43 「問42」で1とお答えになった方におたずねします。
それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。あてはまるものを2つまで選び 印をつけてください。

1. 役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする
2. 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている
3. 集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある
4. 地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである
5. 地域活動に自由に参加できるような家族の理解や協力が無い
6. その他(具体的に)

健康についておたずねします。

問44 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。

1. 受けた
2. 受けなかった

問45 「問44」で2とお答えになった方におたずねします。
健康診断や検診を受けなかったのはなぜですか。あてはまるものすべてに 印をつけてください。

1. 健康であるため
2. 仕事が忙しくて受ける暇がない
3. 期日を忘れていた、気がつかなかった
4. 検診の場所が遠い、分からない
5. 現在通院している
6. その他(具体的に)

少子化についておたずねします。

問46 出生率の低下がいられていますが、あなたはなぜだと思ひますか。
あてはまるものを2つまで選ひ 印をつけてください。

1. 男女の晩婚化によるもの
2. 教育費などの経済的負担が大きいから
3. 子育てに関する諸制度が充実していないから
4. 夫婦二人の生活を楽しむ人が増えたから
5. 子育てより仕事に生きがいを感じる女性が多くなったから
6. 男性の子育てに対する協力・環境が整っていないから
7. 子育てに自信や関心がもてないから
8. その他(具体的に)

女性の人権についておたずねします。

問47 あなたは、この1年間に、配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。次の(a)～(f)のそれぞれについて、あてはまるものに 印をつけてください。

項 目	したことが ある	されたこと がある	ない
a. 殴る、蹴る	1	2	3
b. 命の危険を伴う暴力	1	2	3
c. 大声でどなって威嚇する	1	2	3
d. 家具や食器などを投げたり 壊したりしておどす	1	2	3
e. 交友関係や電話・外出・手紙のやりとり、お金の使い 道を細かく監視・制限する	1	2	3
f. 生活費等の必要なお金をわたさない(とる)	1	2	3

問48 「問47」で1つでも「されたことがある」とお答えになった方におたずねします。
誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに 印をつけて
ください。

1. 警察に連絡・相談した
2. 婦人相談所（配偶者暴力相談センター）やその他の公的な機関に相談した
3. 人権擁護委員、民生委員、自治会長などに相談した
4. 弁護士に相談した
5. 家族に相談した
6. 友人・知人に相談した
7. 相談しなかった（理由は _____ ）
8. その他（具体的に _____ ）

問49 「問48」で1～6とお答えになった方におたずねします。
相談した結果、状況はどうになりましたか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけ
てください。

1. 問題が解決された
2. 良い方向に向かった
3. あまり変わらなかった
4. かえって悪くなった
5. その他（具体的に _____ ）

問50 あなたは、この1年間に職場でセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
と思われる被害を受けたり、他の人の被害について聞いたことがありますか。
あてはまるものすべてに 印をつけてください。

1. 自分が直接被害を受けたことがある
2. 同じ職場で被害を受けた人がいる
3. 友人や知人で被害を受けた人を知っている
4. 自分は被害を受けたことはないし、友人や知人で被害を受けた人も知らない
5. その他（具体的に _____ ）

女性に対する暴力をなくす運動



配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るため、平成13年
10月にDV防止法が制定され、毎年11月12日から25日までの
2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

問5 1 「問5 0」で1とお答えになった方におたずねします。
誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに 印をつけてください。

1. 上司、同僚に相談した
2. 職場の相談窓口で相談した
3. その他の公的な機関（大分労働局雇用均等室など）に相談した
4. 友人、知人、家族に相談した
5. 相談しなかった
6. その他（具体的に _____)

問5 2 「問5 1」で1～4とお答えになった方におたずねします。
相談した結果、状況はどうになりましたか。あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. 問題が解決された
2. 良い方向に向かった
3. あまり変わらなかった
4. かえって悪くなった
5. その他（具体的に _____)

政策決定の場への女性の参画についておたずねします。

問5 3 本市では、平成22年度までに審議会等の女性登用率30%を目指していますが、平成17年4月1日現在、日田市の審議会等の女性比率は24.5%です。まだまだ女性委員が少ない状況です。このことをあなたはどのように思いますか。
あてはまるものを1つだけ選び 印をつけてください。

1. 女性を増やした方がよい
2. 男女半々がよい
3. わからない
4. その他（具体的に _____)

問5 4 審議会等の女性委員が少ない理由はなぜだと思いますか。
あてはまるものを2つまで選び 印をつけてください。

1. 団体の長でなければ委員になれない
2. 家事や育児に支障をきたすため（家族の理解が得られない）
3. 関わる機会が少ない
4. 行政に関心のある女性が少ない
5. その他（具体的に _____)

男女共同参画への要望についておたずねします。

問55 あなたは、男女共同参画社会の実現のために今後どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び 印をつけてください。

1. 女性の能力向上のための学習・研修の充実（女性リーダーの育成）
2. 企業や行政機関などの役職や管理職、各審議会委員などに女性の登用を促進
3. 固定的な性別役割分担意識の解消のための学習・研修の充実
4. 子どもの頃からの男女平等教育の推進
5. 男女が共に働きやすい就労環境づくり
6. 女性の就業支援のための情報提供や職業訓練
7. 家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり
8. 子育て・介護などと仕事の両立のための支援
9. 男性の男女共同参画に対する意識改革
10. 女性に対する暴力の根絶と被害者に対する救済対策
11. 文化活動や学習のための施設整備
12. その他（具体的に _____)

問56 男性と女性が、職場・学校・地域・家庭で、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、何かご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構ですので具体的にご記入ください。

【回答欄】

以上で調査を終了いたします。ご協力ありがとうございました。